

準備しよう! Prius

HITACHI
Inspire the Next

パソコンを使えるようにしよう

1

いろいろな使い方をするために

2

再セットアップ

3

技術情報

4

Prius Air

マニュアルをよく読み、保管してください。

- 製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。
- このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

はじめに

マニュアルを確かめよう

このたびは日立のシステム装置（以下、パソコン）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

次の内容と各マニュアルの内容をよくお読みになり、安全に正しくお使いください。

マニュアルの構成について

このパソコンには、使い始める準備から使いこなすまでの手引き、マニュアルが付いています。マニュアルには、本書のような紙マニュアルと、画面で見る電子マニュアルがあります。どちらにも役に立つ便利な情報が書かれています。大いに活用して快適なパソコンライフをお楽しみください。

紙マニュアル

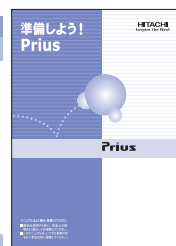
はじめにお読みください

- 『必ずお読みください』



パソコンを使えるようにしよう！

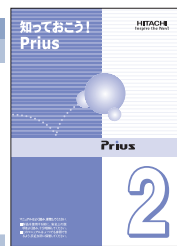
- 『準備しよう！ Prius』



さっそく使ってみよう！

- 『知っておこう！ Prius』

同じ内容が
電子マニュアルにもあります



動画機能を使ってみよう！

- 『プリウスナビを楽しもう！』

同じ内容が
電子マニュアルにもあります



電子マニュアル

マニュアルの情報は電子マニュアルにあり、必要な情報を画面ですばやく探すことができます。



はじめてパソコンに触るなら



インターネット・メールを始めるなら



アプリケーションを楽しむなら



もっとパソコンを使うなら・困ってしまったら



電子マニュアルを開こう

電子マニュアルは、このパソコンのマニュアルを画面で読めるようにしたものです。電子マニュアルを開いてみましょう。

詳しい電子マニュアルの使い方は、『マニュアルスタートガイド』をご参照ください。



画面上(デスクトップ)のアイコンをダブルクリックして



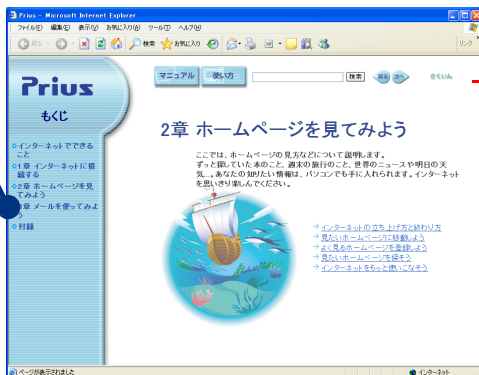
電子マニュアル



電子マニュアル 活用百科

- 1 マウスを調べたい項目の上に
- 2 見たい項目をクリック

1 調べたい項目を
クリック

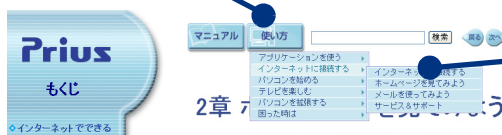


電子マニュアル画面

2 電子マニュアルを
読む

他のことを調べるなら

1 ① を ② の上に

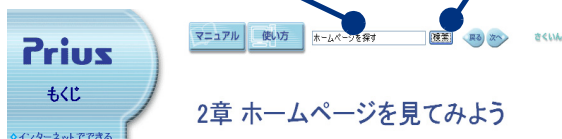


2 ② を
クリック

知りたいことを入力して調べるなら

1 ① を入力

2 ② をクリック



3 ③ を
クリック






4 ④ の
項目を
クリック

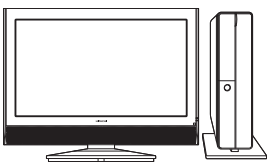
5 電子マニュアルを読む

お使いになる前に

マニュアルの表記について

 重要	重要事項や使用上の制限事項を示します。
 ヒント	パソコンを活用するためのヒントやアドバイス、パソコンの用語を解説します。
 参照 →	参照先を示します。
CD/DVD ドライブ	DVD スーパーマルチドライブなどの光学式ディスクドライブを表記します。
HDD	ハードディスクドライブを表記します。
FDD	フロッピーディスクドライブを表記します。
FD	フロッピーディスクを表記します。
Windows、Windows XP	Microsoft® Windows® XP Home Edition を表記します。
Office Personal 2003	Microsoft® Office Personal Edition を表記します。
Home Style+	Microsoft® Office Home Style+ を表記します。

本書では、パソコンの形名に応じて次のように表記しています。
パソコンの形名は、本体を縦置きにしたとき、底面になる部分に記載されています。

表 記	形 名
ディスプレイありモデル、 ワイヤレスキーボード/マウスモデル 	PCF-AR35R1R
ディスプレイなしモデル、 PS/2 接続のキーボード/マウスモデル	PCF-AR32G1R PCF-AR31G1R

- ・ マニュアルで使用している画面およびイラストは一例です。機種によっては、異なる場合があります。説明の都合で、画面のアイコンやイラストのケーブルなど、省略している場合があります。
- ・ URL、お問い合わせ先、画面などは、マニュアル作成時点のものです。

保証書について

- ・ 保証書は、所定事項が記入されたものをお受け取りになり、大切に保管しておいてください。
- ・ 保証期間中に万一故障した場合は、保証書の記載内容に基づいて無料で修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
- ・ 保証期間終了後の修理については、Prius 集中修理センターにご相談ください。詳しくは、紙マニュアル『必ずお読みください』2章の「パソコンのサポートについて」をご参照ください。

重要なお知らせ

- ・ 本書の内容の一部または全部を、無断で転載あるいは引用することを禁止します。
- ・ 本書の内容について将来予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の記述内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- ・ 本製品を運用した結果については前項にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

もくじ

はじめに

マニュアルを確かめよう

マニュアルの構成について	
電子マニュアルを開こう	2

お使いになる前に

マニュアルの表記について	4
保証書について	4
重要なお知らせ	5

もくじ

1章 パソコンを使えるようにしよう

同梱品を確かめよう

同梱品チェックリストで確認しよう	10
液晶ディスプレイの箱には	12
保証書を確認しよう	12

接続しよう

置き場所や姿勢について	13
パソコンを設置しよう	14
ディスプレイの転倒防止について	17
リモコンに電池を入れよう	18
キーボードとマウスを接続しよう	19
ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスの使用について	23
電池の取り扱いについて	24
パソコンを接続しよう	25

電源を入れよう

電源を入れよう	34
キーボードとマウスを設定しよう	35
使用許諾契約に同意しよう	38
電源を切ろう	41

もう一度、電源を入れよう

2章 いろいろな使い方をするために

インターネットを始めたい方は.....	46
モデムを使うには.....	46
テレビを見たい方は.....	47
ほかの周辺機器を使うときは.....	47
各部の名前を知っておこう.....	48
液晶ディスプレイ.....	48
パソコン正面.....	49
パソコン背面.....	51
キーボード.....	53
CD/DVDドライブのディスクの入れ方/取り出し方.....	57
FDの入れ方/取り出し方.....	58

3章 再セットアップ

再セットアップについて.....	62
作業の流れ.....	62
1 準備する.....	63
2 一括インストールを行う.....	65
3 アプリケーションをインストールする.....	72
4 電子マニュアルをインストールする.....	74

4章 技術情報

アプリケーション一覧.....	78
パソコン仕様一覧.....	81
ドライブの仕様.....	85
DVDスーパーマルチドライブ(DVD±R2層書き込み対応)の仕様.....	85
メモリーボードの仕様.....	87
有寿命部品一覧.....	88
オプション情報.....	89
さくいん.....	90



1

章

1章 パソコンを使えるようにしよう

この章では、パソコンを使えるようにするための準備について説明します。

- >> ・ 同梱品を確かめよう (P.10)
- >> ・ 接続しよう (P.13)
- >> ・ 電源を入れよう (P.34)
- >> ・ もう一度、電源を入れよう (P.43)

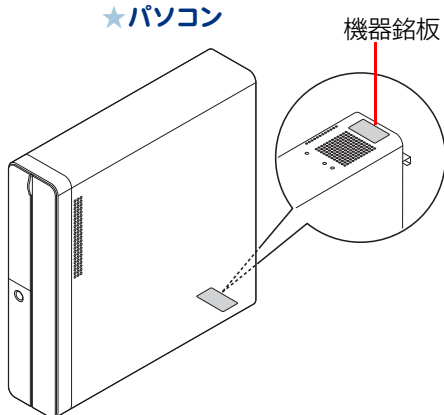
同梱品を確かめよう

箱を開けたら、箱の中に入っている同梱品がすべてそろっていることを『同梱品チェックリスト』で確認しましょう。万一不足があるときは、安心コールセンターにお問い合わせください。

同梱品チェックリストで確認しよう

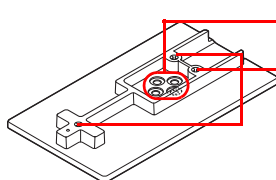
■ ディスプレイありモデル

★パソコン



機器銘板

★パソコンスタンド



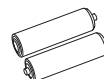
★ゴム足 4 個

★スタンド取り付けネジ (3 個)

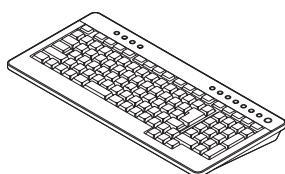
★ワイヤレスマウス



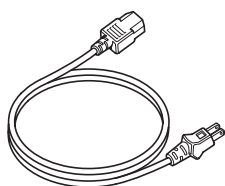
★単 3 形アルカリ乾電池 (6 個、リモコン、ワイヤレスキーボード / マウス用)



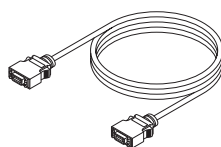
★ワイヤレスキーボード



★電源コード (パソコン用)



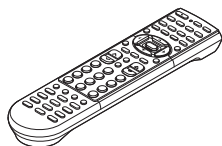
★D 端子ケーブル



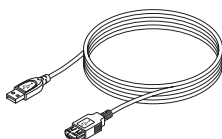
★アース線



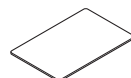
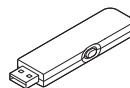
★パソコン用リモコン



★ワイヤレスキーボード / マウスレシーバー接続ケーブル



★ワイヤレスキーボード / マウスレシーバー

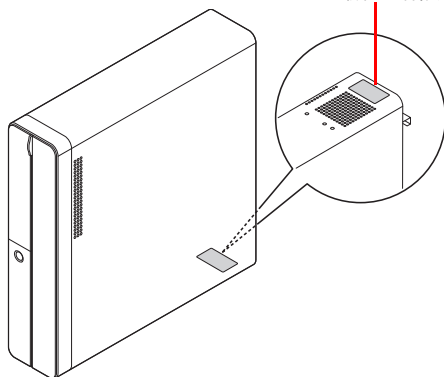


※ ヒント

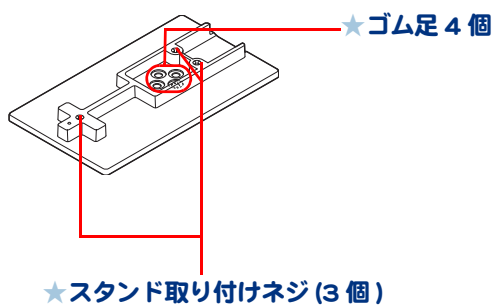
- パソコンの形名を確認するには機器銘板に形名や製造番号が記載されています。機器銘板の取り付け位置は、変更される場合があります。ご了承ください。
- パソコンスタンドには、横置き用のゴム足が収納されています。また、スタンド取り付けネジは、あらかじめ実装されています。

■ ディスプレイなしモデル

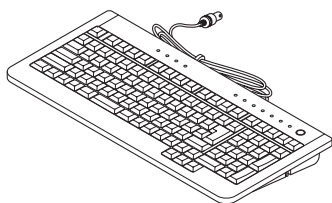
★パソコン



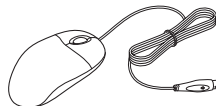
★パソコンスタンド



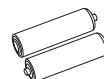
★キーボード



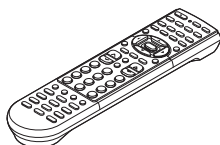
★マウス



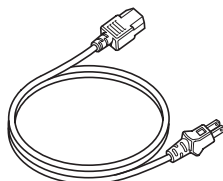
★単 3 形アルカリ乾電池 (2 個、リモコン用)



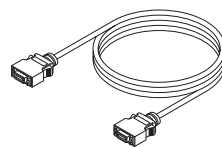
★パソコン用リモコン



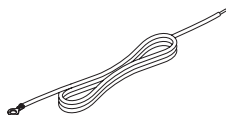
★電源コード (パソコン用)



★D 端子ケーブル



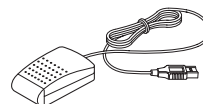
★アース線



★B-CAS カード



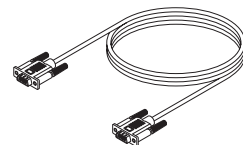
★リモコン受信ユニット



★オーディオケーブル



★D-Sub ケーブル



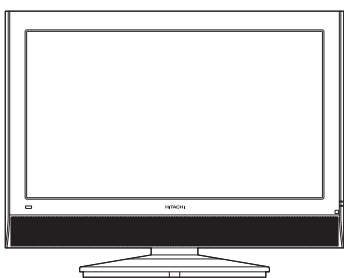
※ ヒント

- パソコンの形名を確認するには
機器銘板に形名や製造番号が記載されています。
機器銘板のはり付け位置は、変更される場合があります。ご了承ください。
- パソコンスタンドには、横置き用のゴム足が収納されています。また、スタンド取り付けネジは、あらかじめ実装されています。

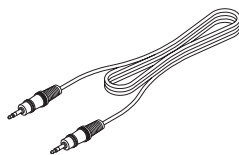
液晶ディスプレイの箱には

■ ディスプレイありモデル

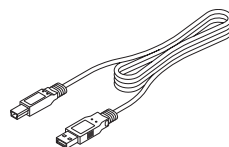
★ 26型液晶ディスプレイ



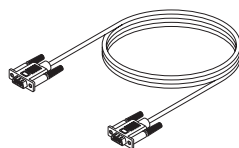
★ オーディオケーブル



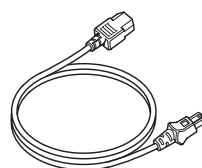
★ USB ケーブル



★ D-Sub ケーブル



★ ディスプレイ電源コード



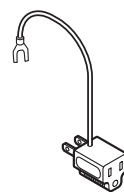
★ リモコン用電池 (CR2025)



★ ディスプレイ用リモコン (PCF-KP2000)



★ ディスプレイ電源コードアダプター



※ ヒント ● D-Sub ケーブル
パソコンと液晶ディスプレイを接続するときに使用します。

保証書を確認しよう

保証書

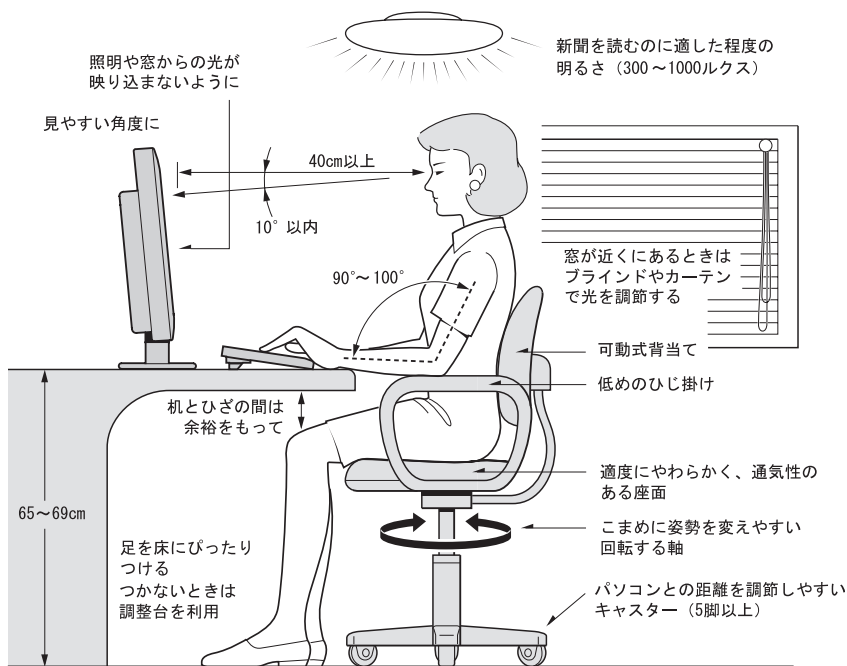
保証書は、パソコンの箱にはり付けてあります。大切に保管してください。パソコンの製造番号と保証書の番号が、同じであることをご確認ください。万一違う場合は、すぐに安心コールセンターにお問い合わせください。

接続しよう

パソコンの置き場所を決めてから、接続しましょう。

置き場所や姿勢について

パソコンを使う場所によっては、パソコンに思わぬトラブルを起こす可能性があります。パソコンを正しく使うために、パソコンを使うときに適した場所と姿勢について知っておきましょう。



参照：日本人間工学会 ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン (1998年 労働科学研究所発行)

- ・ パソコンのディスプレイは、体の正面に設置し、見やすい角度に調整する。
- ・ ディスプレイの照度、明るさと周囲の照明を適度に調節し、ディスプレイの反射を抑える。
- ・ 明るさコントラストなどを見やすいように調整する。
- ・ キーボードやマウスを使うときは、手首とひじは水平になるような位置を保つ。
- ・ パソコンの作業時間は、1日に最大6時間を目安とし、1時間ごとに10~15分の休息をとる。
- ・ キーボードは、裏側についている足で、使いやすい角度に調整する。
- ・ 周辺機器を接続しても余裕のある、十分な作業空間を確保する。
- ・ 不自然な姿勢を避け、ときどき姿勢を変える。

警告

- ・ 浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気が多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因になります。
- ・ 本体内部にほこりが溜まることによって、精密部分の冷却を妨げ、故障ややけどの原因になります。
- ・ パソコンの周囲は、ほこりを吸わないようにこまめに清掃してください。パソコンの冷却用ファンユニットが目詰まりをおこし、過熱、発煙や故障の原因となります。

注意

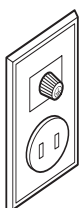
- ・ 傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがをするおそれがあります。

パソコンを設置しよう

このパソコンは、縦置きでも横置きでも設置できます。
設置する場所に合わせて、置き方を決めましょう。

■ コンセントの位置を確認しよう

次のコンセント類が、パソコンに設置する場所にあるか、ご確認ください。コンセント類とパソコンを接続するケーブルが届く位置にパソコンの位置を決めてください。これは代表的な例です。



電源コンセント 2 個

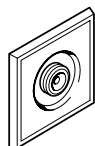
プリンターなど、周辺機器を接続する場合は、さらにその個数分必要です。

アース端子 2 個 (ディスプレイなしモデルは 1 個)

本体の FG 端子とアース端子をアース線で接続するときが必要です。



アース端子の接続方法→「パソコンを接続しよう」(P.25)

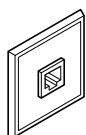


アンテナ端子 1 個

テレビを見るときに必要です。



テレビアンテナ端子の接続方法→紙マニュアル『プリウスナビを楽しもう!』



モジュラーコンセント 1 個

モデムを使ってインターネットに接続するときが必要です。



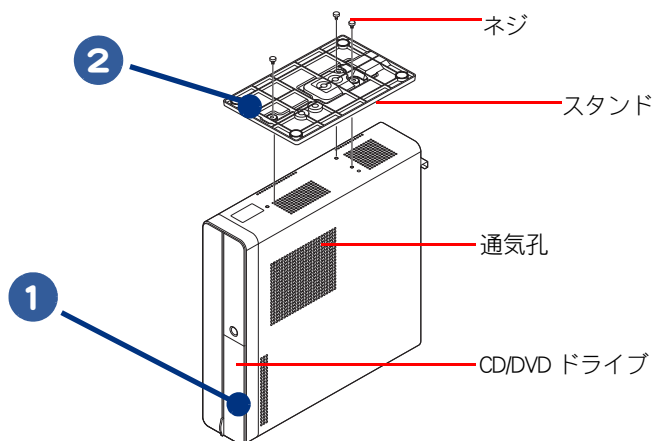
モジュラーケーブルの接続方法→「モデムを使うには」(P.46)

■ 縦置き

パソコンを縦置きにするときは、パソコンスタンド（以下、スタンド）を取り付けてください。スタンドは、次のように取り付けます。

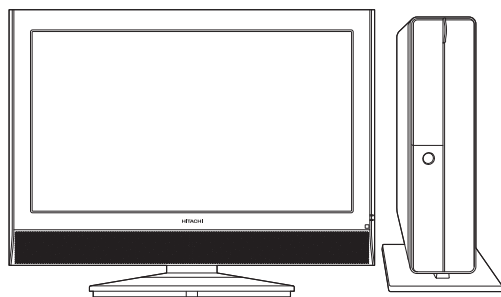
1 CD/DVD ドライブが下になるように、パソコンを縦に置く

2 スタンドのネジと、パソコンのネジ穴を合わせ、3箇所ネジで固定する



重要 ● スタンドを取り付けるときは、パソコン前面のドアを強く押さないでください。壊れることがあります。

3 スタンドを下にして、パソコンを置く



重要 ● 8cmのCD/DVDを使用される場合は、パソコンを横置きにご使用ください。

警告

- ・縦置きの場合、付属のパソコンスタンドを正しい位置に必ず取り付けてください。取り付けないと、通気孔がふさがり、発煙、発火や故障の原因になります。また、転倒し、けがや故障の原因になります。
- ・通気孔部分に物を置いたり立てかけたりしないでください。通気孔がふさがれると内部の温度が上昇し、発煙、発火や故障の原因になります。
- ・パソコンを移動させるときは、パソコン本体を持って移動してください。ゴム足やパソコンスタンドを持って移動させると、パソコン本体からゴム足やパソコンスタンドが外れ、けがや故障の原因になります。

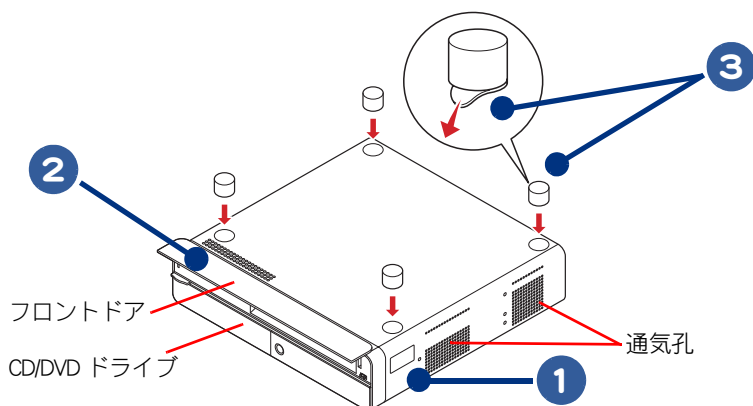
注意

- ・スタンドを取り付けた状態で、パソコンを傾けないでください。スタンドが壊れることがあります。

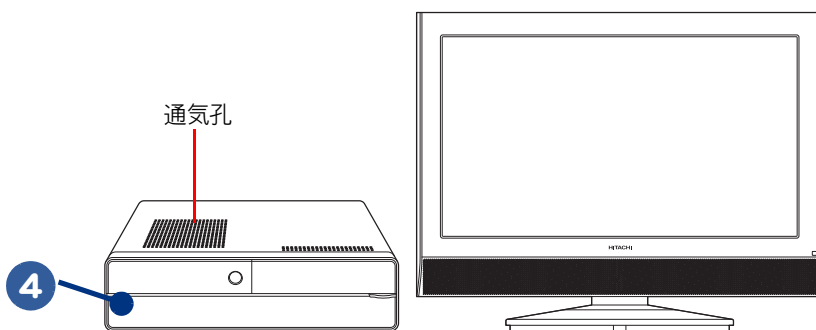
■ 横置き

パソコンを横置きにする場合は、付属のゴム足 4 個を取り付けます。
ゴム足は付属のパソコンスタンドに収納されています。

- 1 CD/DVD ドライブが下になるように、パソコンを横に置く
- 2 フロントドアを開く
- 3 次のイラストを参考に、ゴム足 4 個のシールをとり、フロントドアにぶつからないように、パソコンの四隅にはり付ける



- 4 ゴム足を下にして、パソコンを置き、ディスプレイを横に置く



重要

- パソコンを横置きにして使用する場合、付属のディスプレイは、パソコンの上に設置しないでください。耐重量オーバーや設置物による発熱などにより、破損や誤作動、故障の原因になります。
- ゴム足を接着するパソコンの面に、ゴミ、油などの汚れがある場合は、ふきとってください。
- 8cm の CD/DVD を使用される場合は、パソコンを横置きにご使用ください。

警告

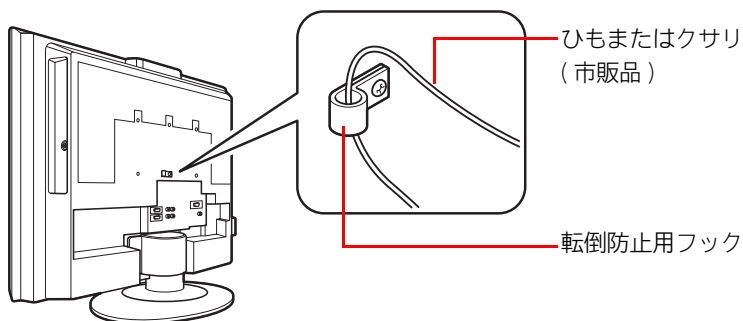
- ・横置きの場合、イラストを参考に、付属のゴム足をパソコンの四隅に必ず取り付けてください。取り付けないと、通気孔がふさがり、発煙、発火や故障の原因になります。また、転倒し、けがや故障の原因になります。
- ・通気孔部分に物を置いたり立てかけたりしないでください。通気孔がふさがれると内部の温度が上昇し、発煙、発火や故障の原因になります。
- ・パソコンを移動させるときは、パソコン本体を持って移動してください。ゴム足やパソコンスタンドを持って移動させると、パソコン本体からゴム足やパソコンスタンドが外れ、けがや故障の原因になります。

ディスプレイの転倒防止について

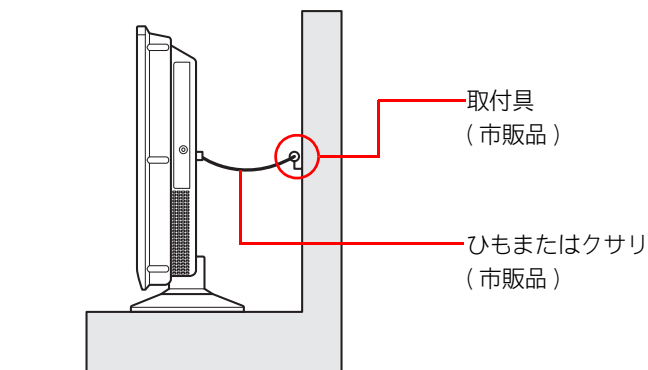
■ ディスプレイありモデル

本ディスプレイは奥行きが小さいため、大きな地震などのときは倒れる場合があります。必ず転倒防止を行ってください。

- 1 次のイラストを参考にディスプレイ背面の転倒防止用フックに、市販のひもまたはクサリを通す



- 2 確実に支持できる壁や柱などに市販の取付具をつけ、ひもまたはクサリでしっかり固定する



重要 ● ひもまたはクサリは、スイーベル動作（左右の角度調整）を行ったとき、支障にならない程度の余裕を持たせてください。

■ ディスプレイなしモデル

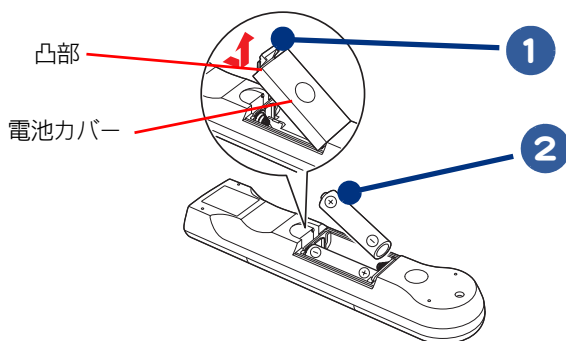
ディスプレイに添付のマニュアルをご参照の上、適切な対策を行ってください。ディスプレイのマニュアルに、転倒防止の対策方法について記載がない場合は、容易に転倒しないことを考慮し、適切な対策を行ってください。

リモコンに電池を入れよう

同梱のリモコンに電池を入れましょう。

■ パソコン用リモコンの場合

- 1 電池カバーの凸部を、指で押さえながら矢印方向に開ける
- 2 プラス (+)、マイナス (-) を確認して、単 3 形のアルカリ乾電池を 2 本入れる



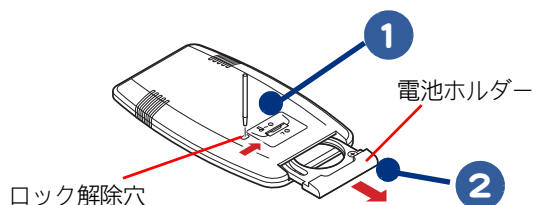
3 電池カバーを閉める

- 重要**
- リモコン送信部と、リモコン受信ユニットやディスプレイの受信部の位置により、操作範囲が変わります。正面の場合は 5m 以内、左右 15° ずれる場合は 3m 以内です。ただし、直射日光が当たるなど、周囲環境によっては、操作範囲が狭くなる場合があります。
 - パソコン用リモコンの乾電池寿命は、通常約 2 年 (アルカリ乾電池使用時) です。なお、使用頻度が高い場合、電池寿命は短くなります。
 - 長時間使用しない時は、乾電池を取り出してください。リモコンを使用せずに放置していても乾電池が消費されます。

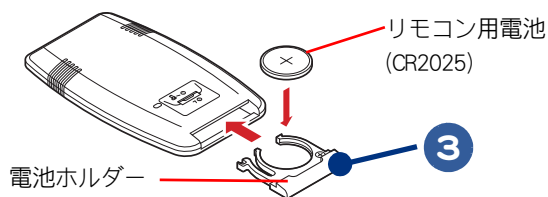
■ ディスプレイ用リモコンの場合 (ディスプレイありモデルのみ)

ディスプレイ用リモコンに電池を入れましょう。

- 1 細いピンなどをロック解除穴に差し込み、矢印方向にピンを動かして電池ホルダーのロックを解除する
- 2 電池ホルダーを矢印方向に取り外す



3 電池の向きを確かめて電池ホルダーに電池を入れ、電池ホルダーをカチッとロックされるまでリモコンに差し込む



- 重要**
- リモコン送信部と、ディスプレイの受信部の位置により、操作範囲が変わります。正面の場合は5m以内、左右15°ずれる場合は3m以内です。ただし、直射日光が当たるなど、周囲環境によっては、操作範囲が狭くなる場合があります。
 - 長時間使用しない時は、乾電池を取り出してください。リモコンを使用せずに放置していても乾電池が消費されます。

キーボードとマウスを接続しよう

■ ワイヤレスキーボード / マウスモデル

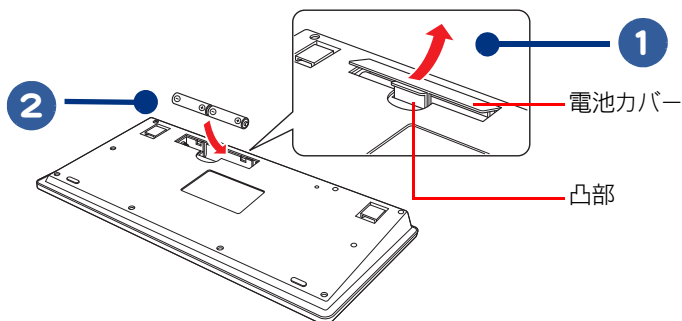
同梱のキーボードとマウスに電池を入れましょう。

- ※ ヒント**
- ディスプレイなしモデルの場合「PS/2 接続のキーボード / マウスモデルの場合」(P.22)の手順1へお進みください。
 - ワイヤレスキーボード / マウスを使用するには、はじめに設定を行う必要があります。設定の方法について、パソコンを接続したあと、「電源を入れよう」の「ディスプレイありモデルのみ」(P.35)へお進みください。

キーボード

1 電池カバーの凸部を、指で押さえながら矢印方向にスライドさせて開ける

2 プラス (+)、マイナス (-) を確認して、単3形アルカリ乾電池を2本入れる

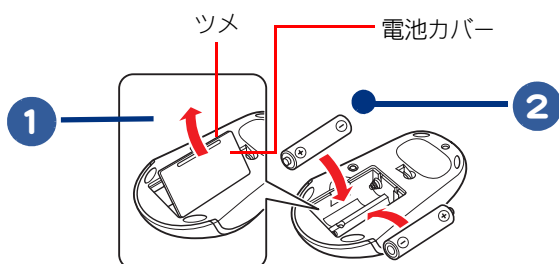


3 電池カバーを閉める

- 重要**
- 操作範囲は、パソコンの周囲約6m以内となります。周囲環境(外来ノイズ)の影響によっては操作範囲が狭くなる場合があります。
 - ワイヤレスキーボードの乾電池寿命は、通常約6ヶ月(アルカリ乾電池使用時)です。なお、使用頻度が高い場合、電池寿命は短くなります。
 - 長時間使用しない時は、乾電池を取り出してください。ワイヤレスキーボードを使用せずに放置していても乾電池が消費されます。

マウス

- 1 電池カバーのツメを、指で押さえながら矢印方向に引き上げて開ける
- 2 プラス (+)、マイナス (-) を確認して、単 3 形アルカリ乾電池を 2 本入れる

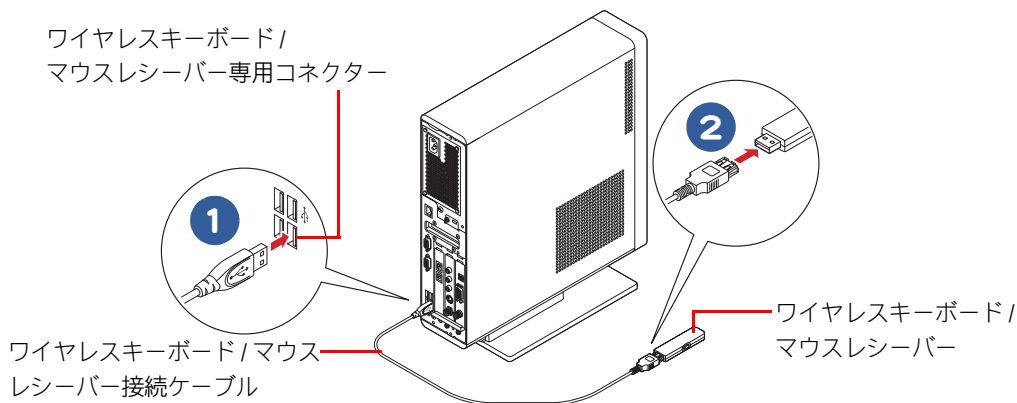


- 3 電池カバーを閉める

- 重要**
- 操作範囲は、パソコンの周囲約 6m 以内となります。周囲環境 (外来ノイズ) の影響によっては操作範囲が狭くなる場合があります。
 - ワイヤレスマウスの乾電池寿命は、アルカリ乾電池使用時で、連続最大 55 時間 (約 2ヶ月) です。なお、使用頻度が高い場合、電池寿命は短くなります。
 - 長時間使用しない時は、乾電池を取り出してください。ワイヤレスマウスを使用せずに放置していても乾電池が消費されます。

ワイヤレスキーボード / マウスレシーバー

- 1 「ワイヤレスキーボード / マウスレシーバー接続ケーブル」のコネクタ形状を確かめ、パソコン本体背面の「ワイヤレスキーボード / マウスレシーバー専用コネクタ」に差し込む
- 2 ワイヤレスキーボード / マウスレシーバーを取り付ける

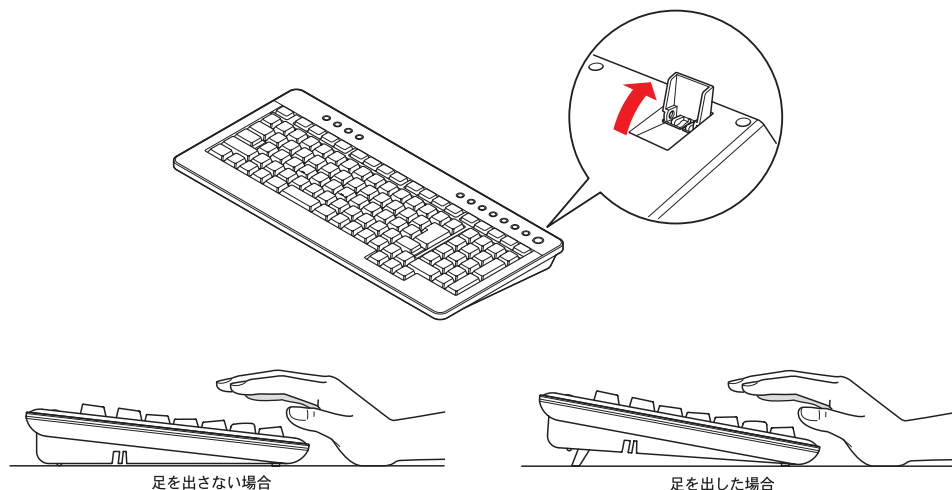


- 重要**
- ケーブルが正しく接続されていない場合、電源が入らないことがあります。接続時の注意事項をご参照の上、正しく接続してください。

参照 → 詳細について → 「USB コネクタ取り付け時の注意」(P.25)

キーボードの角度を変えよう

キーボードの裏側には、キーボードの角度を変えるための足が付いています。この足を引き出すと、キーボードを置いたときの傾きを大きくできます。



マウスご使用上の注意

ワイヤレスマウスは電池寿命を延ばすため、10分操作しないと裏側のLEDセンサーを消灯して節電モードに入ります。この状態では、マウスを動かしてもパソコン画面上のマウスポインターは動きません。節電モードを解除するには、ワイヤレスマウスの左ボタンまたは右ボタンのどちらかをクリックしてください。

クリックしても、マウス底面のLEDセンサーが光らない場合は、電池を交換してください。



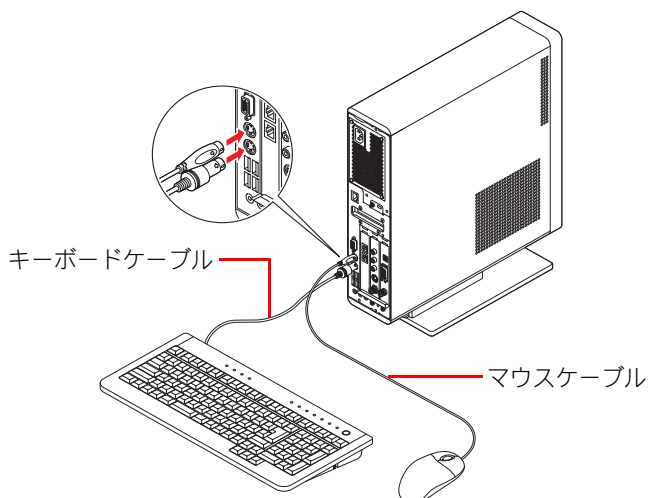
キーボードご使用上の注意

ワイヤレスキーボードは電池寿命を延ばすため、一つのキーを約1分以上押し続けた場合、キー入力を停止します。押し直すと、キー入力を再開できます。

■ PS/2 接続のキーボード / マウスモデルの場合

※ヒント ● ディスプレイありモデルの場合は、「ワイヤレスキーボード / マウスモデル」(P.19)の手順 1 へお進みください。

1 キーボードケーブル、マウスケーブルを背面それぞれのコネクタに差し込む

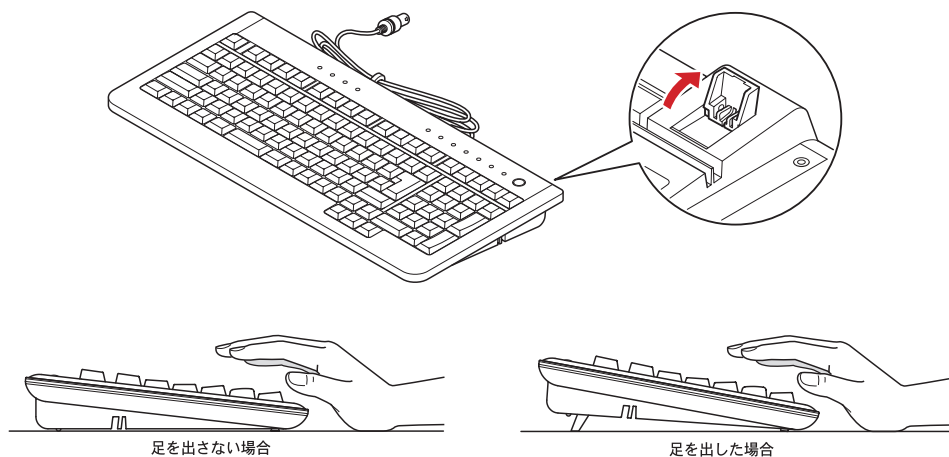


- 重要**
- 各プラグは、差し込む向きが決まっています。パソコン側のコネクタの形と、ケーブル側のプラグの形を正しく合わせて確実に差し込んでください。
 - ピンのあるものは、ピンを曲げたり折らないようにしてください。

参照 → 各部の名称について → 「各部の名前を知っておこう」(P.48)

キーボードの角度を変えよう

キーボードの裏側には、キーボードの角度を変えるための足が付いています。この足を引き出すと、キーボードを置いたときの傾きを大きくできます。

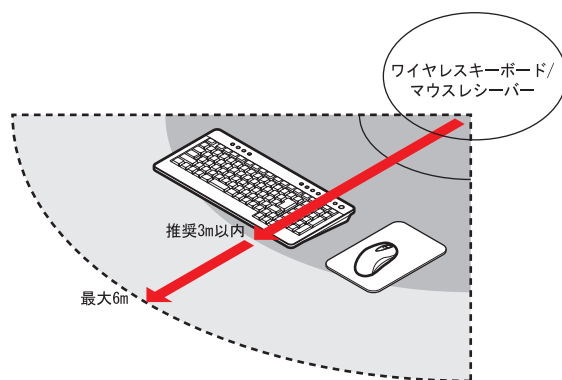


ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスの使用について

ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスの使用に適した環境について知っておきましょう。

ワイヤレスキーボード・ワイヤレスマウスの操作範囲が適切か確認

操作範囲は、パソコンの周囲約 6m 以内となります。周囲環境（周辺の電子機器など）の影響によっては操作範囲が狭くなる場合があります。



電波の影響を受ける環境でお使いになる場合

次のような環境でお使いになると、周囲からの電波の影響を受けて、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスがうまく動作しないことがあります。

- ・ パソコン本体の近くにワイヤレス LAN アクセスポイントを置いている（パソコン本体とアクセスポイントは 1m 以上離して設置してください）。
 - ・ パソコン本体と、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスの間に電気・電子機器や金属製のものを置いている。
 - ・ 周囲でノイズ源となる電気・電子機器（無線機器を含む）を使用している。
 - ・ 周囲にこのパソコンと同じ周波数の電波を使用している危機がある（このパソコンを複数台でお使いの場合、無線局の近隣でお使いの場合、周囲でラジコンや無線機をお使いの場合など）。
 - ・ パソコン本体を電子レンジの近くに置いている。
- このような場合には、ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスの ID を設定し直すと、動作する場合があります。

電池の取り扱いについて

ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウス、リモコンの電池の取り扱いについて知っておきましょう。

⚠ 警告

- ・電池は次のことに注意してお取り扱いください。取り扱いを誤ると、液漏れ、過熱・破裂・発火し、火災やけがの原因となります。
 - 電池の+、-を正しく入れる
 - 火の中に入れない
 - ショートさせたり、分解、加熱しない
 - 指定以外の電池は使用しない
 - 電池の+、一部に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない
 - 電池を金属製のピンセットなどでつかまない
 - 電池を使い切ったとき、長時間使用しないときは、取り出しておく
- ・電池を保管する場合は、端子に絶縁テープをはり、絶縁状態にしてください。絶縁状態にしないで電池を保管すると、端子間どうしが接触ショートし過熱・破裂・発火などでけがをしたり、火災の原因になります。
- ・電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、気道を確保しながら直ちに医師にご相談ください。

⚠ 注意

- ・リモコンやワイヤレスキーボード/マウスを長期間使用しないときは、電池を取り外してください。取り外さないと、液漏れによりやけどをしたり、リモコンやワイヤレスキーボード/マウスが故障するおそれがあります。

🔴 重要

- アルカリ乾電池を使用してください。ニッカド電池など他の電池は使用しないでください。故障するおそれがあります。
- 電池が2本入っている場合、交換するときは2本とも新しい電池と交換してください。古い電池と新しい電池をあわせて使用しないでください。
- 同梱品の乾電池は動作確認用です。乾電池寿命は保証できません。

🌟 ヒント

- 動作可能領域で使っていても、うまく操作できないときは、電池残量がわずかになっている可能性があります。電池を交換してみてください。
- パソコンで設定を行うと、ワイヤレスキーボード/マウスの電池残量を示すインジケータを表示させることができます。

👉 参照

- ・リモコンの使い方について→紙マニュアル『プリウスナビを楽しもう!』
- ・電池残量の設定方法について→電子マニュアル『パソコン応用』1章の「キーボード/マウスの電池容量の確認」

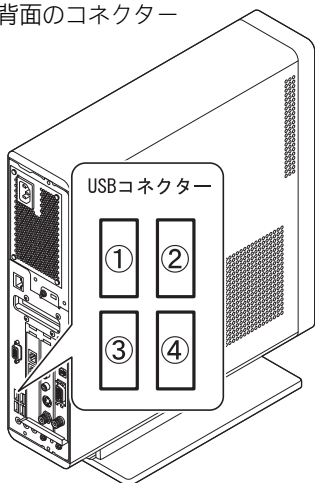
パソコンを接続しよう

さっそく接続してみましょう。

■ USB コネクタ取り付け時の注意

USB コネクタへ接続するときは、次の点にご注意ください。

パソコン背面のコネクタ



- パソコン背面のUSBコネクタについて
コネクタ①、③：汎用ポート
コネクタ②、④：構成により制限があります。
詳細については、次の項目をご参照ください。

※ ヒント

- 上記イラストの②のコネクタは、モデルにより名称が異なります。
ワイヤレスキーボード/マウスモデル：専用コントロール/リモコン端子
PS/2接続のキーボード/マウスモデル：ディスプレイ/リモコン受信ユニット専用コネクタ
- 上記イラストの④のコネクタは、モデルにより名称が異なります。
ワイヤレスキーボード/マウスモデル：ワイヤレスキーボード/マウスレシーバー専用コネクタ
PS/2接続のキーボード/マウスモデル：USBコネクタ
- ワイヤレスキーボード/マウスモデルの場合、②、④以外のUSBコネクタは、工場出荷時状態でラベルがはり付けられ、接続できない状態になっています。USB機器を接続するときは、ラベルをはがしてから接続してください。
- ワイヤレスキーボード/マウスモデルの場合、②、④以外のUSBコネクタに、USB機器を接続することができません。USB機器をどのコネクタに接続してもかまいません。また、正面のUSBコネクタに接続してもかまいません。
- ディスプレイありモデルの場合、②以外のUSBコネクタに、USB機器を接続することができます。USB機器をどのコネクタに接続してもかまいません。また、正面のUSBコネクタに接続してもかまいません。
- 接続してもUSB機器が動作しない場合は、パソコンおよびUSB機器の電源をすべて切ってから接続し直し、USB機器、パソコンの順で電源を入れ直してください。

▲ 重要

- ワイヤレスキーボード/マウスモデルの場合、ケーブル端に付いているタグと、パソコン本体背面の端子色が合うように接続してください。
- ディスプレイありモデルの場合、必ずパソコンとディスプレイをUSBケーブルで接続してください。パソコン側の接続するコネクタは、上記イラストの②です。
- ワイヤレスキーボード/マウスモデルの場合、上記イラストの④のコネクタは、ワイヤレスキーボード/マウスレシーバー専用端子です。ワイヤレスキーボード/マウスレシーバー以外は接続しないでください。
- ワイヤレスキーボード/マウスモデルの場合、必ずワイヤレスキーボード/マウスレシーバーの接続ケーブルは、上記イラストの④のコネクタに接続してください。
- 上記イラストの①のコネクタには、USBキーボードやUSBマウスを接続しないでください。スタンバイ状態でUSBキーボード、USBマウスを操作して復帰させた場合、「Prius Navistation4」が立ち上がります。USBキーボードやUSBマウスを接続する場合は、別のUSBコネクタに接続してください。
- ケーブルは、正しい向き、正しい角度で差し込んで接続してください。ケーブルがきちんと差し込まれていないと、動作しなかったり、誤動作の原因になります。
- ケーブルの抜き差しをする場合は、プラグ部分を持って、5秒以上の間隔をあけて行ってください。USB機器が認識されないことがあります。
- USB2.0対応の機器をご使用の場合は、USB2.0対応のUSBケーブルをご使用ください。
- USBポートの電源供給能力は、1ポートあたり最大500mAです。500mAを超えるUSB機器は使用できません。
- 著作権保護機能のため、USB-VGA機器と「Prius Navistation4」の同時使用はできません。

■ ディスプレイありモデルの場合

※ヒント ● ディスプレイなしモデルの場合は、「パソコンを接続しよう」「ディスプレイなしモデルの場合」(P.30)手順1へお進みください。

▲重要 ● ケーブルが正しく接続されていない場合、電源が入らないことがあります。正しく接続してください。
● 各ケーブルやコードは、必ず付属のものをご使用ください。

1 D-Sub ケーブルの接続は、上下の向きを確かめ、奥までしっかり差し込む。
このとき、コネクタ内のピンを曲げないように注意して差し込む

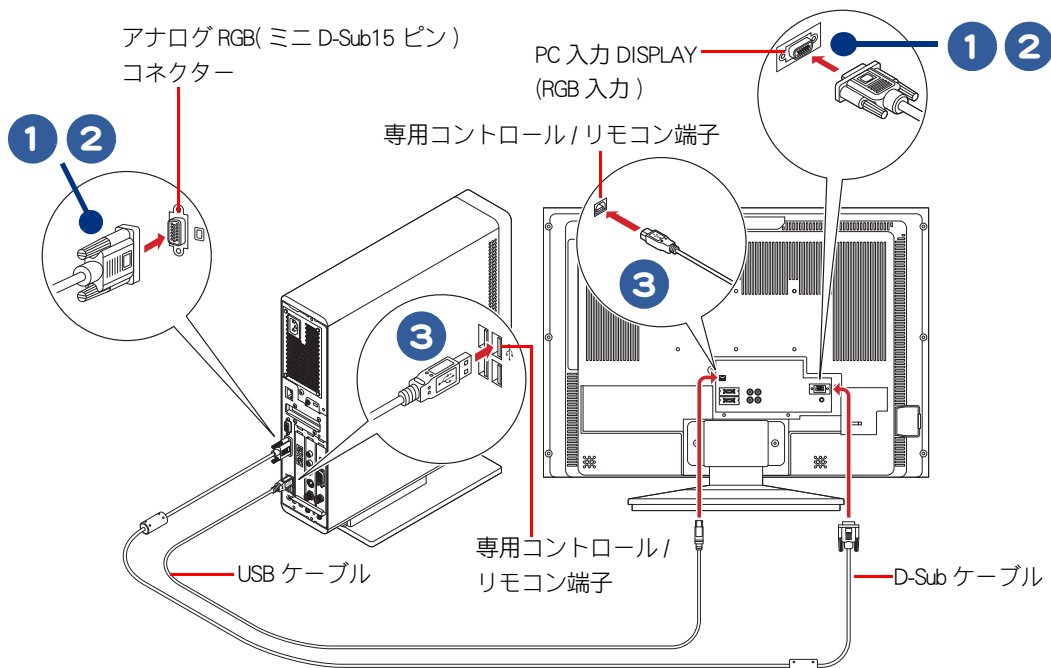
2 D-Sub コネクタのつまみを右に回し、コネクタを固定する

▲重要 ● 画面が表示されている状態で D-Sub コネクタを抜かないでください。再度、D-Sub コネクタを差し込んでも画面が表示されないことがあります。この場合は、パソコンを立ち上げ直す必要があります。
● D-Sub ケーブルは、パソコンとディスプレイに直接接続し、延長ケーブルや各種アダプターは使用しないでください。使用すると画面が表示されないことがあります。

3 USB ケーブルの接続は、USB コネクタの向きを確かめ、パソコン本体背面の「専用コントロール/リモコン端子」および、ディスプレイ側の「専用コントロール/リモコン端子」に接続する

▲重要 ● ケーブルが正しく接続されていない場合、電源が入らないことがあります。接続時の注意事項をご参照の上、正しく接続してください。

参照 → 詳細について → 「USB コネクタ取り付け時の注意」(P.25)

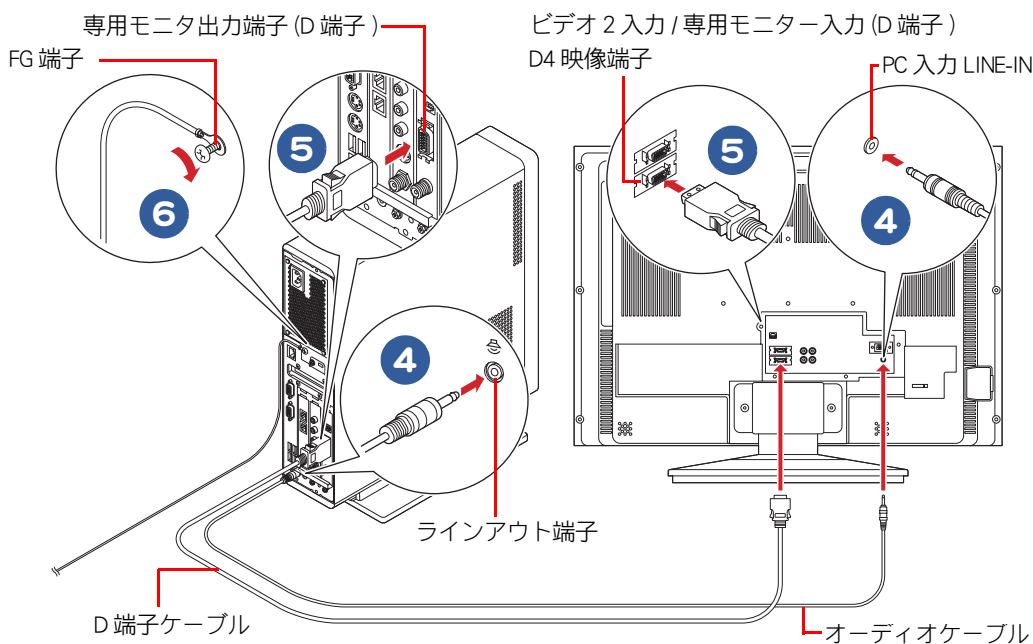


4 オーディオケーブルをコネクタに差し込む

5 D端子ケーブルをパソコンとディスプレイのD端子に接続する。 パソコン側は、「専用モニタ出力端子(D端子)」に接続する。 ディスプレイ側は、「ビデオ2入力/専用モニター入力(D端子)」に接続する。 D端子ケーブルは、コネクタ左右のロックがカチッと音がするまでしっかりと奥まで差し込む

- 重要**
- ディスプレイに、パソコンからのD端子ケーブルを接続するときは、「ビデオ2入力/専用モニター入力(D端子)D4映像端子」に接続してください。「ビデオ1入力D4映像端子」は、パソコン以外の機器と接続するときに使用します。
 - D端子ケーブルを接続するときは、コネクタ左右のロックがカチッと音がするまでしっかりと差し込んでください。

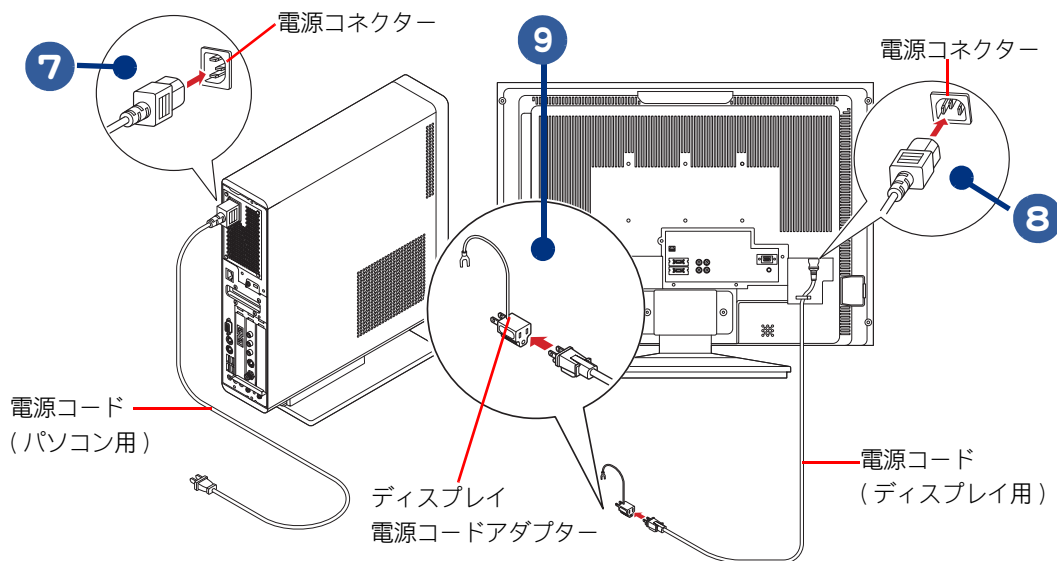
6 アース線を取り付けネジで接続する



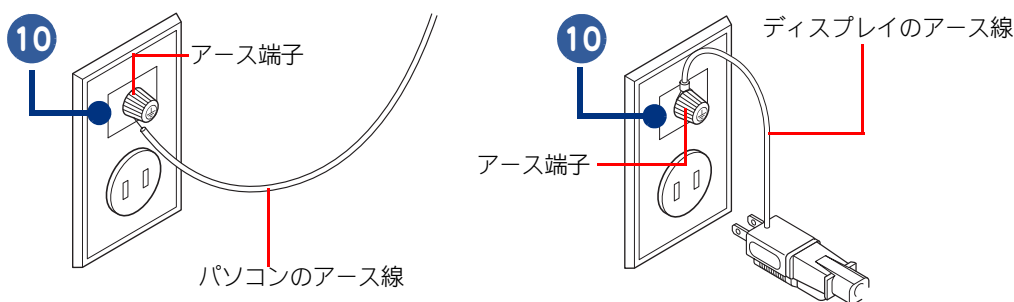
7 電源コード(パソコン用)をパソコンの電源コネクタに差し込む

8 電源コード(ディスプレイ用)を液晶ディスプレイの電源コネクタに差し込む

9 電源コード(ディスプレイ用)のコネクタに、ディスプレイ電源コードアダプターを取り付ける



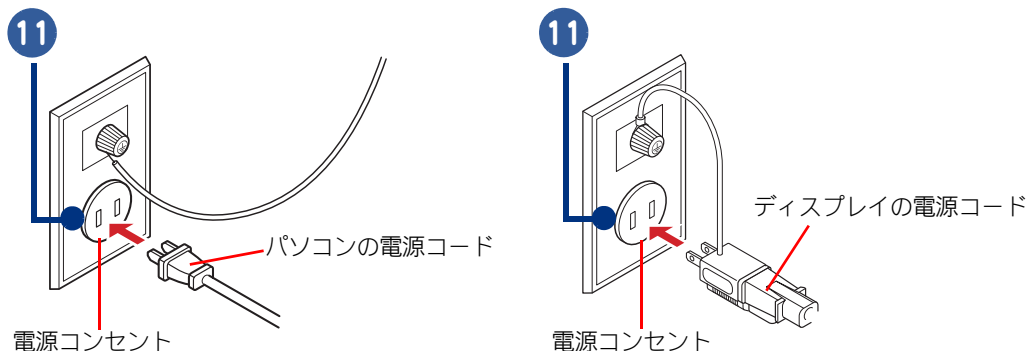
10 パソコンのアース線とディスプレイのアース線をアース端子に接続する



重要

- アース線をアース端子に接続するとき、アース線先端の被覆を外し、芯線をアース端子に接続してください。アース線先端の被覆を外さず、被覆の上からアース端子に接続すると、万一の漏電時に感電の原因になります。
- 安全のためアース線がついています。電源コードのプラグをコンセントに差し込む前に必ずアース線を接続してください。

11 液晶ディスプレイの電源コード、パソコンの電源コードの順にプラグをコンセントに差し込む



警告

- ・タコ足配線について
同じコンセントに多数の機器を接続しないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因になります。また、電力の使用量がオーバーとなり、ブレーカーが落ちてほかの機器にも影響を及ぼします。
- ・アース線について
感電防止のため、アース線を専門の電気技術者が施工したアース端子に接続してください。接続しないと万一の漏電時に感電の原因となります。
 - ・接地作業は本体の電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。
 - ・アース線は添付したもの以外は使用しないでください。
 - ・アース線は確実に接地がとれる箇所に接続してください。ガス管などの危険な箇所には絶対に接続しないでください。

重要

- 電源コードのプラグをコンセントから抜き差しするときは、パソコン、ディスプレイの順に行ってください。パソコンの電源コードのプラグがコンセントに差し込んである状態で、ディスプレイの電源コードのプラグをコンセントから抜き差しすると、一時的にパソコンが立ち上がる場合があります。

※ ヒント

- 電源コードを接続した直後は、キーボードの [POWER] キーまたは、リモコンの [電源] ボタンから立ち上げられません。一度 Windows を立ち上げ、Windows を終了して電源を切ってから、キーボードの [POWER] キーまたは、リモコンの [電源] ボタンから立ち上げることができます。電源を入れるときは、パソコン前面の電源スイッチを押してください。

■ ディスプレイなしモデルの場合

- ※ ヒント**
- パソコンを接続するときは、ディスプレイに添付のマニュアルもあわせてご参照ください。
 - ディスプレイありモデルの場合は、「パソコンを接続しよう」「ディスプレイありモデルの場合」(P.26)手順1へお進みください。

- ▲ 重要**
- ケーブルが正しく接続されていない場合、電源が入らないことがあります。正しく接続してください。
 - 各ケーブルやコードは、必ず付属のものをご使用ください。

1 D-Sub ケーブルをパソコンとディスプレイに接続する。
D-Sub ケーブルの接続は、上下の向きを確かめ、奥までしっかり差し込む。
このとき、コネクタ内のピンを曲げないように注意して差し込む

2 D-Sub コネクタのツマミを右に回し、コネクタを固定する

- ▲ 重要**
- 画面が表示されている状態でD-Sub コネクタを抜かないでください。再度、D-Sub コネクタを差し込んでも画面が表示されないことがあります。この場合は、パソコンを立ち上げ直す必要があります。
 - D-Sub ケーブルは、パソコンとディスプレイに直接接続し、延長ケーブルや各種アダプターは使用しないでください。使用すると画面が表示されないことがあります。

3 USB コネクタの向きを確かめ、リモコン受信ユニットをパソコン本体背面のディスプレイ / リモコン受信ユニット専用コネクタに接続する

- ▲ 重要**
- ケーブルが正しく接続されていない場合、電源が入らないことがあります。接続時の注意事項をご参照の上、正しく接続してください。

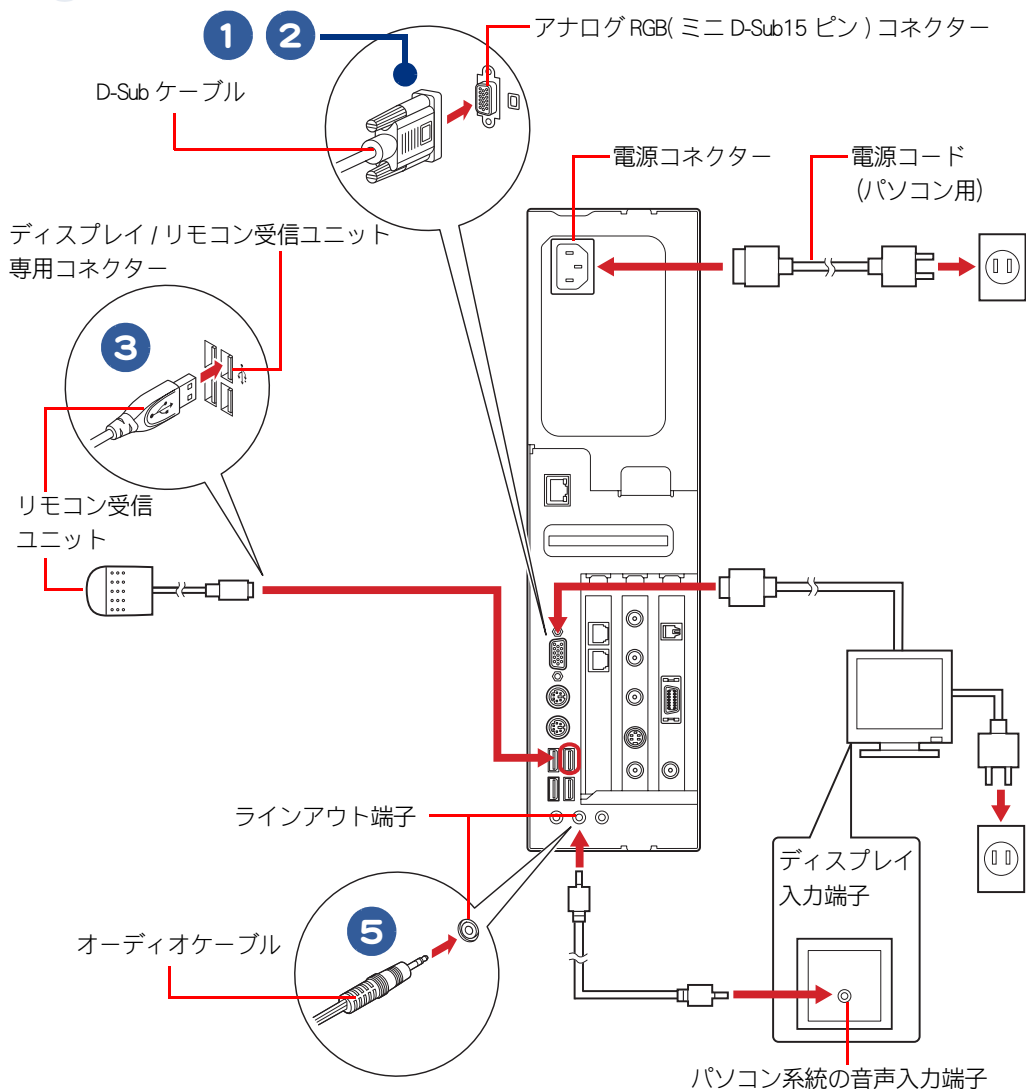
参照 → 詳細について → 「USB コネクタ取り付け時の注意」(P.25)

4 D 端子のあるディスプレイを接続する場合は、D 端子ケーブルをパソコンとディスプレイのD端子に接続する。
パソコン側は、「専用モニタ出力端子(D端子)」に接続する。
ディスプレイ側は、ディスプレイに添付のマニュアルを参照の上、接続する。
D端子ケーブルを、コネクタ左右のロックがカチッと音がするまでしっかりと奥まで差し込む

- ▲ 重要**
- D端子ケーブルを接続するときは、コネクタ左右のロックがカチッと音がするまでしっかりと差し込んでください。

5 オーディオケーブルをラインアウト端子、ディスプレイの音声入力端子に接続する

D端子がないディスプレイの場合



※ヒント ● 接続図は、一例です。接続するディスプレイによって、接続方法が異なります。

- 6 アース線をFG端子に取り付け、ネジで接続する
- 7 電源コード(パソコン用)をパソコンの電源コネクタに差し込む
- 8 ディスプレイの電源コードをディスプレイに接続する
- 9 ディスプレイの電源コードに、ディスプレイ電源コードアダプターを取り付ける。
ディスプレイ電源コードアダプターが添付されていない場合、本手順は不要

10 パソコン、ディスプレイのアース線をアース端子に接続する。 ディスプレイにアース線がない場合、本手順は不要

- 重要**
- アース線をアース端子に接続するとき、アース線先端の被覆を外し、芯線をアース端子に接続してください。アース線先端の被覆を外さず、被覆の上からアース端子に接続すると、万一の漏電時に感電の原因になります。
 - 安全のためアース線がついています。電源コードのプラグをコンセントに差し込む前に必ずアース線を接続してください。

11 ディスプレイの電源コード、パソコンの電源コードの順にプラグをコンセントに差し込む

- 警告**
- ・タコ足配線について
同じコンセントに多数の機器を接続しないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因になります。また、電力の使用量がオーバーとなり、ブレーカーが落ちてほかの機器にも影響を及ぼします。
 - ・アース線について
感電防止のため、アース線を専門の電気技術者が施工したアース端子に接続してください。接続しないと万一の漏電時に感電の原因となります。
 - ・接地作業は本体の電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。
 - ・アース線は添付したもの以外は使用しないでください。
 - ・アース線は確実に接地がとれる箇所に接続してください。ガス管などの危険な箇所には絶対に接続しないでください。

- 重要**
- 電源コードのプラグをコンセントから抜き差しするときは、パソコン、ディスプレイの順に行ってください。パソコンの電源コードのプラグがコンセントに差し込んである状態で、ディスプレイの電源コードのプラグをコンセントから抜き差しすると、一時的にパソコンが立ち上がる場合があります。

- ヒント**
- 電源コードを接続した直後は、キーボードの[POWER]キーまたは、リモコンの[電源]ボタンから立ち上げられません。一度Windowsを立ち上げ、Windowsを終了して電源を切ってから、キーボードの[POWER]キーまたは、リモコンの[電源]ボタンから立ち上げることができます。電源を入れるときは、パソコン前面の電源スイッチを押してください。

電源を入れよう

ここまででパソコンの電源を入れる準備ができました。
次に、電源を入れて Windows を使えるようにするまでの操作を説明します。

※ヒント ● Windows を使えるようにするまでの操作を Windows のセットアップといいます。

電源を入れよう

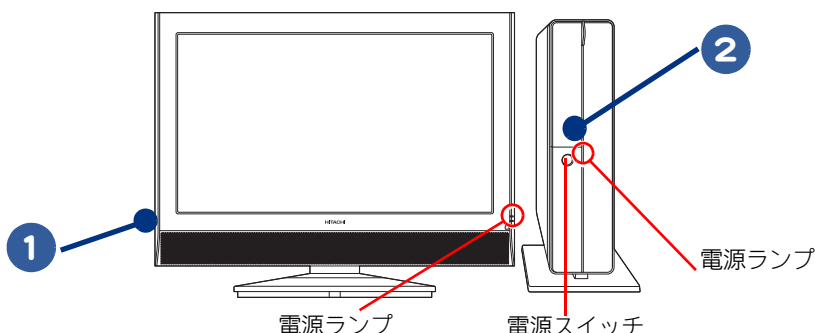
1 ディスプレイの電源スイッチを押す

ディスプレイの電源が入ります。ディスプレイありモデルの場合、ディスプレイの電源ランプが赤からオレンジ色に変わります。

※ヒント ● パソコンの電源が入っておらず無信号状態であるため、「No Sync」などのメッセージが表示されます。

2 パソコンの電源スイッチを押す

液晶ディスプレイの電源ランプとパソコンの電源ランプが緑色に変わり、しばらく待つと [Microsoft Windows へようこそ] 画面が表示されます。



※ヒント ● パソコンの電源を入れても、正しく接続されていない場合は、「No Sync」など無信号状態であることを示すメッセージが表示されます。接続が正しいことを確認し、パソコンの電源を入れ直してください。

参照 → パソコンの電源ランプについて → 「パソコン正面」(P.49)

- ### 3 次の [Microsoft Windows へようこそ] 画面が表示されるまで待つ。
- ディスプレイありモデルの場合、次項の「キーボードとマウスを設定しよう」(P.35)に進んでください。
ディスプレイなしモデルの場合、「使用許諾契約に同意しよう」(P.38)に進んでください

※ヒント ● Windows 立ち上げ時は、ひんぱんに画面の切り替えが行われるため、画面が乱れることがあります。

重要

- 接続後、ディスプレイ側での「自動調整」を実行してください。横線や文字のにじみが出るのを防ぎます。また、「自動調整」を実行されてもにじみが気になる場合は、さらに「フェーズ」「クロック」の調整をしてください。
- ご使用の表示モードごとに「自動調整」を行ってください。

参照 →

「自動調整」「フェーズ」「クロック」について→ディスプレイに添付のマニュアル

キーボードとマウスを設定しよう

■ ディスプレイありモデルのみ

キーボードとマウスの無線信号をパソコンで正しく認識できるように登録します。この操作を行わないと、電源スイッチを入れてもキーボードとマウスは使用できません。

※ ヒント

- キーボードとマウスに電池を入れていない場合は、「キーボードとマウスを接続しよう」の「ワイヤレスキーボード/マウスモデル」(P.19)手順1へお進みください。
- この操作が必要なのはディスプレイありモデルのみとなります。ディスプレイなしモデルの場合は、「使用許諾契約に同意しよう」(P.38)に進んでください

1 [Microsoft Windows へようこそ]画面が表示されたら、キーボード、マウスを設定する

**※ ヒント**

- Windows 立ち上げ時は、ひんばんに画面の切り替えが行われるため、画面が乱れることがあります。
- Windows が立ち上がるまでに、「サポート外信号」と表示されることがありますが、故障ではありません。

2 キーボードとマウスをワイヤレスキーボード/マウスレシーバーに近づける

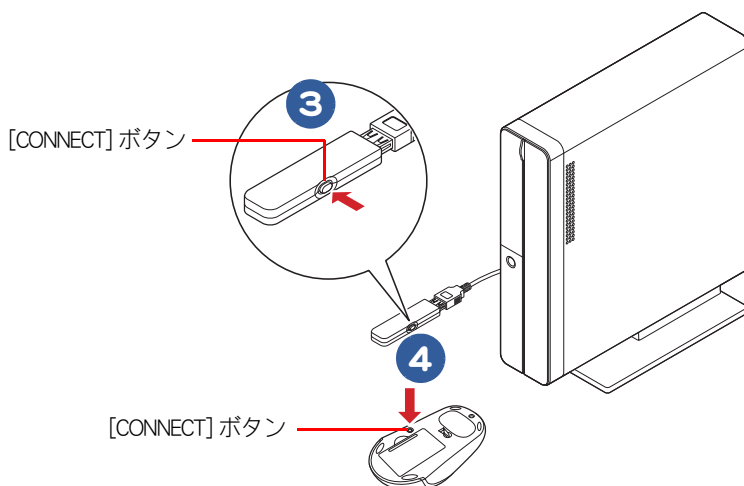
重要

- ワイヤレスキーボード/マウスレシーバーとキーボードまたはマウスの距離は5cm以上離してお使いください。近すぎると、無線信号を正しく受信できない場合があります。

3 ワイヤレスキーボード/マウスレシーバーの [CONNECT] ボタンをカチッという感触がするまで1回押す

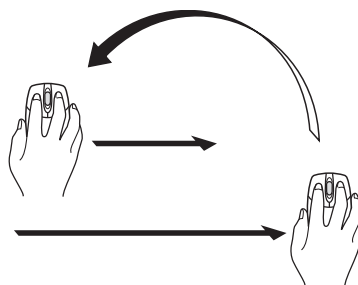
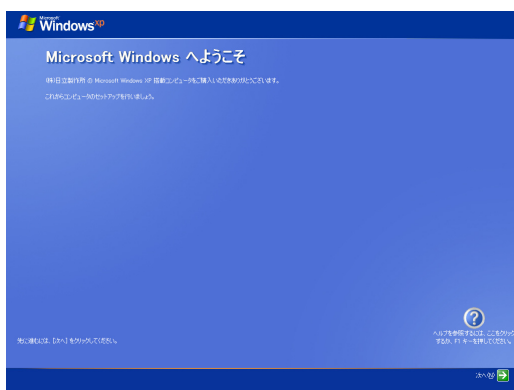
4 10秒以内にマウス底面の [CONNECT] ボタンを1秒程度1回押す

パソコンにマウスが登録され、使えるようになります。



5 ワイヤレスマウスを操作する

20秒ほどで、画面上の  が動くようになります。



重要 ● ここでは、マウスの動作確認をします。[次へ]をクリックしないでください。

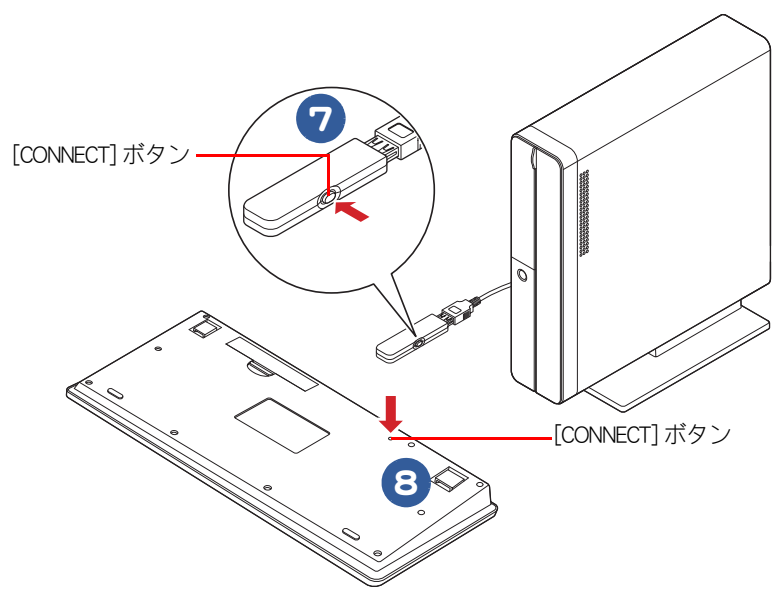
- ※ヒント**
- マウス底面の [CONNECT] ボタンは、3秒以上押し続けしないでください。3秒以上押し続けると、パソコンに正しく登録できない場合があります。
 - ワイヤレスキーボード/マウスレシーバーの [CONNECT] ボタンを押すと、約10秒間マウスの登録ができます。マウスの [CONNECT] ボタンを押すと、通常1～3秒で使用できるようになりますが、設置環境に同周波数帯 (2.4GHz) の装置がある場合や外来ノイズが多い場合は、20秒程度かかる場合があります。
 - ワイヤレスキーボード/マウスレシーバーの接続部に静電気が発生すると、ワイヤレスキーボード/マウスが動作しなくなる場合があります。その場合は一度パソコンから取り外し、しばらく放置した後、再度接続してください。
 - ワイヤレスマウスは電池寿命を延ばすため、10分操作しないと節電モードに入ります。この状態では、マウスを動かしてもパソコン画面のマウスポインターは動きません。節電モードを解除するには、ワイヤレスマウスの左ボタンまたは右ボタンのどちらかをクリックしてください。クリックしてもマウス底面のLEDセンサーが光らない場合は、電池を交換してください。

6 画面上の が動かない場合は、手順3～5でもう一度設定する。 カーソルが動く場合は、手順7に進む



7 ワイヤレスキーボード/マウスレシーバーの [CONNECT] ボタンをカチッという感触がするまで 1 回押す

8 10 秒以内にキーボード底面の [CONNECT] ボタンを 1 秒程度 1 回押す
パソコンにキーボードが登録され、使えるようになります。



重要 ● キーボードの接続確認は使用許諾書の [このコンピュータの名前] を入力するときに確認します。

※ヒント ● キーボード底面の [CONNECT] ボタンは、3 秒以上押し続けしないでください。3 秒以上押し続けると、パソコンに正しく登録できない場合があります。
● ワイヤレスキーボード/マウスレシーバーの [CONNECT] ボタンを押すと、約 10 秒間キーボードの登録ができます。キーボードの [CONNECT] ボタンを押すと、通常 1～3 秒で使用できるようになりますが、設置環境に同周波数帯 (2.4GHz) の装置がある場合や外来ノイズが多い場合は、20 秒程度かかる場合があります。
● キーボードとマウスの登録は、1 回行えば再セットアップや電池交換後も必要ありません。ただし、修理を行った場合は再度登録が必要です。

使用許諾契約に同意しよう


はじめてパソコンの電源を入れたときは、Windows の使用許諾契約に同意して、Windows を使えるようになる必要があります。この操作は、はじめて電源を入れるときだけに必要です。次に電源を入れるときは必要ありません。

重要 ● ディスプレイありモデルもディスプレイなしモデルも使用許諾契約に同意する手順が必要です。次の操作を行ってください。

1 マウスを動かし、画面上に表示されている を移動させて [次へ] に重ね、マウスの左ボタンを 1 回押す



マウスのボタンを 1 回押すことを、「クリック」といいます。

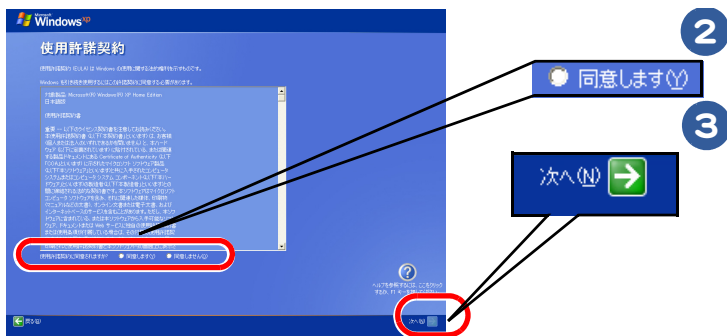
- ※ ヒント**
- **使用許諾契約**
ここでは、あらかじめパソコンに入っている Windows を使うための契約のことをいいます。
 - 画面上に表示されている  を、「マウスポインター」と呼びます。
 - ワイヤレスマウスが動作しない場合は、マウスの無線信号をパソコンで正しく認識できるように登録してください。
 - ワイヤレスマウスの場合、10 分間操作しないと節電モードに入りマウスポインターが動かなくなります。マウスのボタンをクリックし、節電モードを解除してください。



参照 → ワイヤレスマウスの登録について → 「キーボードとマウスを設定しよう」(P.35)

2 [使用許諾契約] 画面で を移動させて 同意します に重ね、クリック

同意します  にチェックが付きます。

3 を移動させて [次へ] に重ね、クリック



※ ヒント ● 操作を間違えたときは、[戻る]  に  を重ね、マウスの左ボタンをクリックします。一つ手前の画面に戻ります。

重要 ● 使用許諾契約は必ずお読みください。

4 [コンピュータを保護してください]画面で、マウスを移動させて

 **に重ね、クリック**

[自動更新を有効にし、コンピュータの保護に役立てます]にチェックが付きます。

5 マウスを移動させて[次へ]→に重ね、クリック



6 [コンピュータに名前を付けてください]画面で[このコンピュータの名前]を入力し、必要に応じて[コンピュータの説明] (省略可能) を入力する

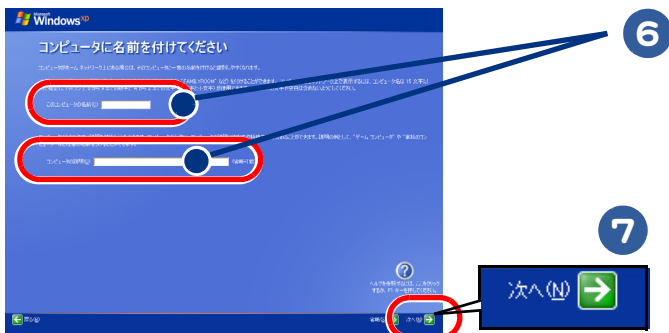
これらの入力内容はあとで変更できるので、[このコンピュータの名前]はペットに名前を付けるようなつもりで入力します。[コンピュータの説明]は何も入力しないで次へ進みます。

日本語を入力するには	日本語を入力する方法は2つあります。使いやすい方法を選んで入力してください。
ローマ字入力	キーの左上のアルファベットを使って、ローマ字読みでひらがなを入力します。 HITACHIと入力すると自動的に「ひたち」となります。
かな入力	かな入力したい場合は、キーボードの Alt キーを押しながら カタカナ ひらがなキーを押すと、かな入力ができます。 キー右下、または右上のひらがなを使って入力します。 ひ た ち と入力すると「ひたち」となります。
漢字変換	入力したひらがなを漢字に変換するには、キーボードの スペース キーを押します。違う漢字が表示されたときは、もう一度 スペース キーを押して、漢字の候補一覧の中から該当する漢字を選びます。 「ひたち」 - ひ → 常陸 - $\text{ち$ → 日立 選んだ漢字を確定するには、 Enter キーを押します。 ひらがなのままでよいときは、 スペース キーを押さずに、そのまま Enter キーを押して確定します。

※ヒント ● ワイヤレスキーボードが動作しない場合は、キーボードの無線信号をパソコンで正しく認識できるように登録してください。

参照 → ワイヤレスキーボードの登録について → 「キーボードとマウスを設定しよう」(P.35)

7 マウスを移動させて[次へ]→に重ね、クリック



※ヒント

- 入力できる文字には制限があります。画面の指示に従ってください。
- [このコンピュータの名前]と[コンピュータの説明]はあとで変更できます。変更の方法については、電子マニュアル『パソコン入門』の「4章 コントロールパネルを使おう」をご参照ください。

8 [このコンピュータを使うユーザーを指定してください]画面で[ユーザー 1]を入力する

入力内容はあとで変更できるので、[ユーザー 1]は自分のニックネームを付けるつもりで入力します。

9 マウスを移動させて[次へ]→に重ね、クリック

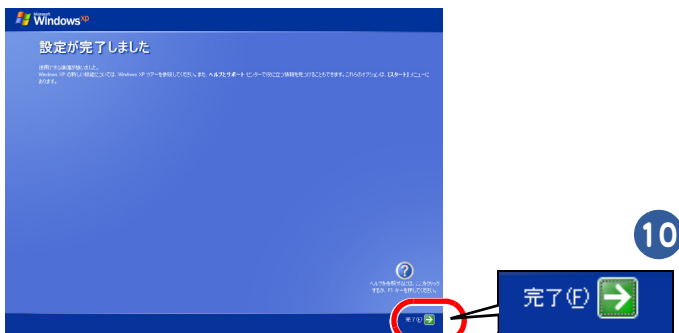


※ヒント

- [ユーザー 1]に入力した名前は、あとで変更できます。変更の方法については、電子マニュアル『パソコン入門』4章の「ユーザ名などを変えよう」をご参照ください。
- キーボードの入力操作に慣れていない方は、電子マニュアル『パソコン入門』の「5章 日本語を入力しよう」をご参照ください。



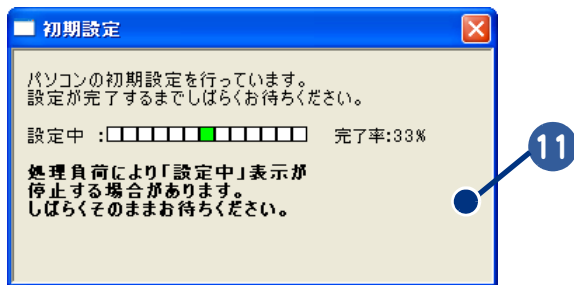
10 [設定が完了しました]画面でマウスを移動させて[完了]➡に重ね、クリック



2回目以降は、電源を入れるとWindowsのデスクトップ画面が表示されます。[使用許諾契約]画面や[コンピュータに名前を付けてください]画面などは表示されません。

11 デスクトップ画面が表示され、モデルによっては[初期設定]画面が表示される。 パソコンを立ち上げ直すメッセージが表示されたら、[再起動]ボタンをクリック

はじめてパソコンの電源を入れ、使用許諾契約に同意したあとにアプリケーションのインストールなどが自動的にはじまります。インストールには数分から十数分かかる場合があります。インストールが完了するまでは、パソコンの電源を切らないでください。



電源を切ろう

Windowsの使用許諾契約などが終わったら、いったん電源を切ります。電源を切る操作はとても大切です。次に説明する方法で、電源を切ってください。

1 スタート にマウスを重ね、クリック

スタートメニューが表示されます。

2 [終了オプション(E)] にマウスを重ね、クリック



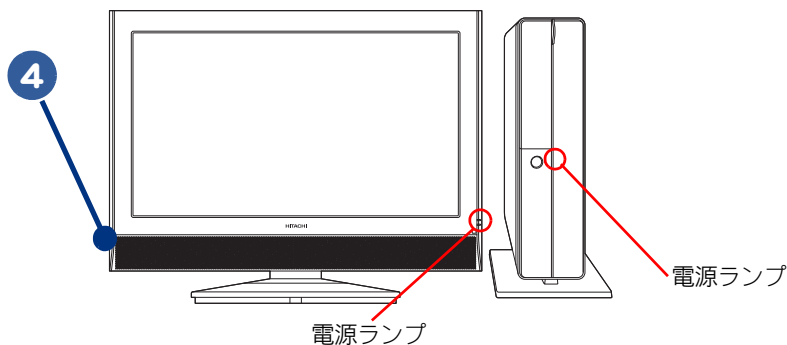
3 [コンピュータの電源を切る] 画面で [D] にマウスを重ね、クリック

画面が暗くなり、しばらくすると電源が切れ、パソコンの電源ランプがオレンジ色の点灯に変わります。



4 ディスプレイの電源スイッチを押す

ディスプレイの電源が切れます。ディスプレイありモデルの場合、ディスプレイの電源ランプが赤色に点灯します。



※ ヒント

- パソコンの電源スイッチを4秒未満押し続けても、手順1～3の操作と同じように電源が正しく切れます。
- パソコン用リモコンの電源ボタンやキーボードの[POWER]キーを押すと、手順1～2の操作と同じように、「コンピュータの電源を切る」画面が表示されます。

▲ 重要

- パソコンの電源スイッチは、4秒以上押し続けしないでください。Windowsが強制終了されます。この場合、異常終了とみなされ、次回立ち上げ時にチェックプログラムが働くことがあります。異常がない場合は、そのあと正常にWindowsが立ち上がります。
- 一度電源を切り、再度電源を入れるときは、20秒以上の間隔を空けてください。

もう一度、電源を入れよう

もう一度電源を入れて、デスクトップ画面が表示されることを確認します。

1

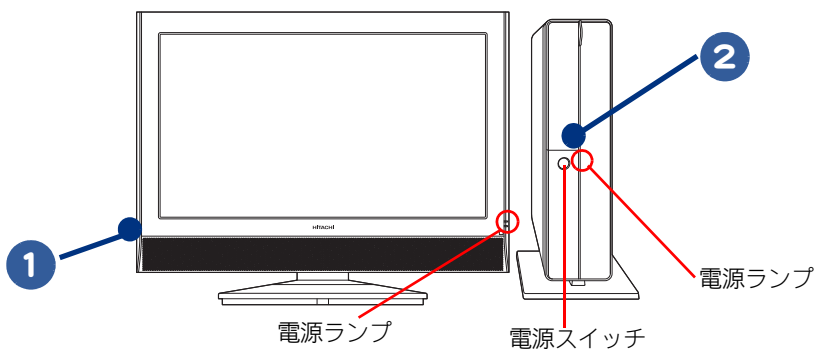
パソコンを正しく使うようにしよう

1 ディスプレイの電源スイッチを押す

ディスプレイの電源が入ります。ディスプレイありモデルの場合、ディスプレイの電源ランプが赤からオレンジ色に変わります。

2 パソコン前面の電源スイッチを押す

液晶ディスプレイとパソコンの電源ランプが緑色に変わり、デスクトップ画面が表示されます。



※ヒント ● Windows 立ち上げ時は、ひんぱんに画面の切り替えが行われるため、画面が乱れることがあります。

▲重要 ● パソコンの立ち上げ時にキーボードを連打したり、押し続けしないでください。エラーメッセージが表示される場合があります。

3 ディスプレイなしモデルの場合、画面の解像度を設定する

画面の解像度は、工場出荷時に次の設定になっています。

モデル	画面の領域	色	フォントサイズ
ディスプレイありモデル	1360 × 768	最高 (32 ビット)	標準
ディスプレイなしモデル	1024 × 768	最高 (32 ビット)	標準

ディスプレイに添付のマニュアルを参照し、適切な解像度に設定してください。適切な解像度に設定することで、見やすく目が疲れにくい画面表示にできます。
解像度が正しく設定されないと、文字がにじむなど正しく表示されない場合があります。

参照 → 適切な画面解像度について → ディスプレイに添付のマニュアル

※ヒント ● ディスプレイありモデルの場合は、工場出荷時に、画面の解像度が適切な設定になっています。設定を変更する必要はありません。



2

章

2章 いろいろな使い方をするために

ここでは、インターネットやテレビを使うための準備など、パソコンのいろいろな使い方や、パソコン各部の名前や働きについて説明しています。

- ≫ ・インターネットを始めたい方は (P.46)
- ≫ ・テレビを見たい方は (P.47)
- ≫ ・ほかの周辺機器を使うときは (P.47)
- ≫ ・各部の名前を知っておこう (P.48)

インターネットを始めたい方は

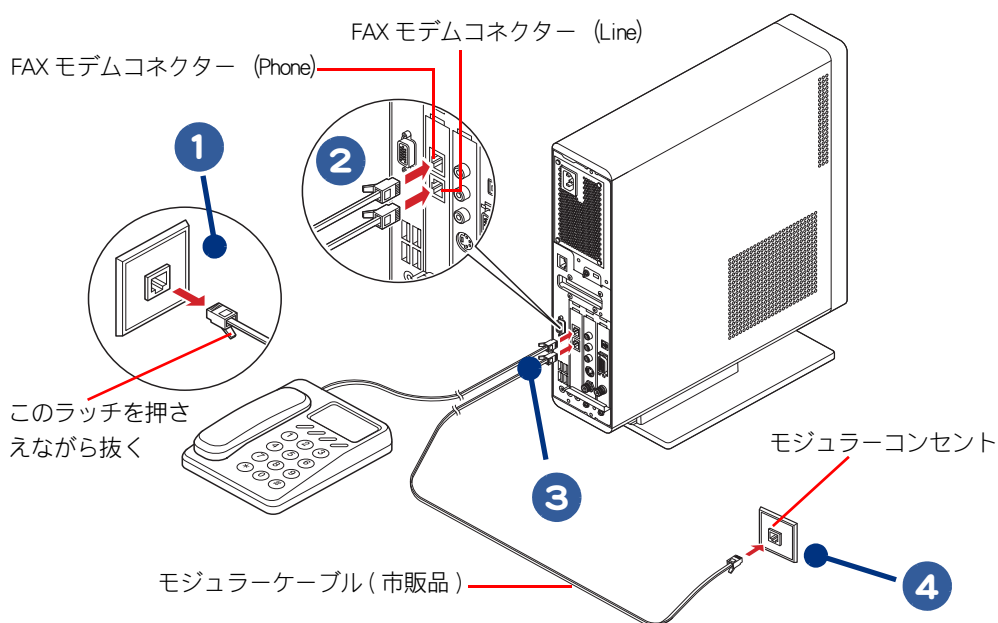
ここでは、モデムを使ってインターネットを始める方法を例に説明します。モデム以外の方法でインターネットを始める方は、電子マニュアル『使おう！インターネット』をご参照ください。

モデムを使うには

モデムを使ってインターネットを始めるためには、次のようにモジュラーケーブルを接続してください。接続には、電話機に接続されているモジュラーケーブルのほかに、もう1本モジュラーケーブルが必要です。市販のモジュラーケーブルを準備してください。

警告 ・雷が鳴っているときは、パソコンの使用、アンテナ線の接続および電話線への接続作業を中止してください。誘導雷で発生する高電圧によって感電するおそれがあります。

- 1 お使いの電話機につながっているモジュラーケーブルを、モジュラーコンセントから抜く
- 2 モジュラーコンセントから外したモジュラーケーブルを、FAX モデムコネクタ（Phone）に「カチッ」と音がするまで差し込む
- 3 市販のモジュラーケーブルの片側を、FAX モデムコネクタ（Line）に「カチッ」と音がするまで差し込む
- 4 モジュラーケーブルの反対側を、モジュラーコンセントに「カチッ」と音がするまで差し込む



※ ヒント

- 接続する前に、お使いになっている電話機の種類をご確認ください。お使いになっている電話機がホームテレフォンやビジネスフォン（内線）の場合、接続しても正常にインターネットを始めることができません。この場合は、NTTにご相談ください。
- モジュラーコンセントの形状がイラストと異なる場合は、モジュラーコンセントを変更する必要があります。詳しくはNTTにご相談ください。

▲ 重要

- モジュラーケーブルには脱落防止のラッチが付いています。モジュラーケーブルを取り外すときは、ラッチを押さえながらモジュラーコンセントから引き抜いてください。ラッチを押さえずに無理に引き抜くと、モジュラーケーブルが断線したり、モジュラーコンセントを破損するなどのおそれがあります。

インターネットを始めるためには、ほかにも必要な手続きが残っています。インターネットの始め方については、電子マニュアル『使おう！ インターネット』をご参照ください。

テレビを見たい方は

このパソコンでテレビを見るには、アンテナ線とパソコンを接続します。詳しくは、紙マニュアル『プリウスナビを楽しもう！』をご参照ください。

ほかの周辺機器を使うときは

周辺機器の接続は、電子マニュアル『パソコン応用』の「3章 パソコンを拡張する」をご参照ください。次のような接続や取り付けなどが行えます。必要に応じて、あらかじめ印刷してください。

電子マニュアルは、デスクトップ画面の「電子マニュアル」アイコンをダブルクリックします。

設定などの詳しい説明は、周辺機器のマニュアルをご参照ください。

- ・ USB 機器を接続する
- ・ IEEE1394 機器を接続する
- ・ LAN を接続する
- ・ ヘッドホン、マイクを接続する
- ・ 光デジタルオーディオ機器を接続する
- ・ SD メモリーカード / メモリースティックを使う
- ・ メモリーボードを取り付ける
- ・ その他の周辺機器を接続する

▲ 重要

- 周辺機器を接続する前に、Windows のセットアップを完了してください。周辺機器を接続してから Windows のセットアップを行うと、正しくセットアップできない場合があります。
- 接続するときは、パソコンと周辺機器の電源をあらかじめ切ってください。

▶ 参照

Windows のセットアップについて → 「使用許諾契約に同意しよう」(P.38)

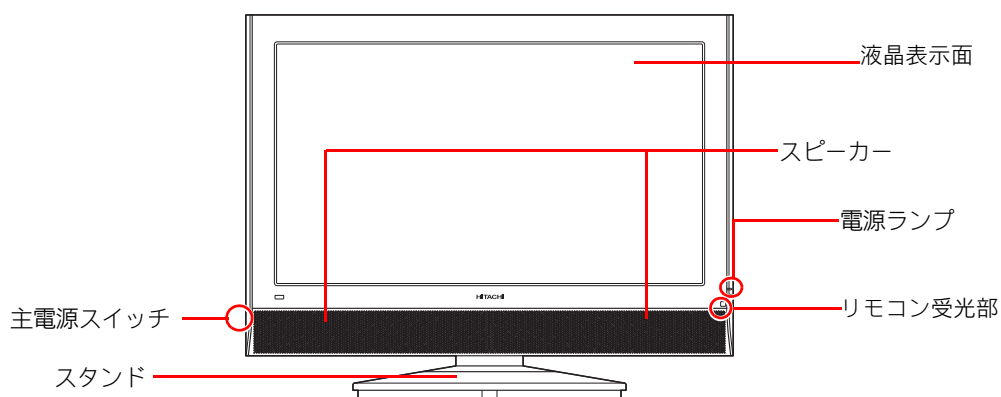
※ ヒント

- 次のプリンタードライバーはプレインストールされています。プリンターを接続すれば、使用できます。一括インストールしたときには、これらのドライバーはインストールされません。プリンターに付属のドライバーをインストールしてください。
 - ・ EPSON (PM-A750、PM-A890、PM-A950、PM-D600、PM-D800、PM-G730、PX-A650、PX-V630、PX-G920)
 - ・ Canon (PIXUS iP8600、PIXUS iP7500、PIXUS iP4200、PIXUS iP90)

各部の名前を知っておこう

液晶ディスプレイ

ディスプレイありモデル



※ ヒント ● 液晶ディスプレイの各部の名前については、ディスプレイに添付のマニュアルをご参照ください。

電源ランプ/パワー インジケーター

ランプの発色でパソコンの動作状態を確認できます。

パソコンの状態	電源ランプ/パワー インジケーターの状態	備考
PowerOFF (電源切)時 または、 パソコン休止状態	オレンジ色に点灯	パソコンの電源が切れている (ACコンセントからは通電している)
PowerON (電源入)時	緑色に点灯	パソコンが立ち上がっている
スタンバイ時	オレンジ色に点滅	節電機能が働いている
電源 OFF 時	消灯	電源コードが外されている

- ※ヒント**
- 電源ランプとパワー インジケーターの動作は同じです。パワー インジケーターが消灯しているときは、電源ランプでパソコンの状態をご確認ください。
 - パワー インジケーターの明るさを調整したり、消灯することができます。

参照 → パワー インジケーターの設定→電子マニュアル『パソコン応用』1章の「パワー インジケーターの明るさを調整する」

タイマー設定ランプ

ランプの発色で録画予約の状態を確認できます。

パソコンの状態	タイマー設定ランプの状態	備考
録画予約中	赤色に点灯	録画予約が設定されている
予約録画中	赤色に点滅	予約した番組を録画している
録画予約なし	消灯	録画予約が設定されていない

ハードディスクアクセスランプ (HDD アクセスランプ)

ランプの状態で、HDD がデータを読み書きしているか確認できます。

パソコンの状態	HDD アクセスランプの状態	備考
HDD アクセス時	緑色に点滅	HDD がデータの読み書きをしている

CD/DVD ドライブアクセスランプ

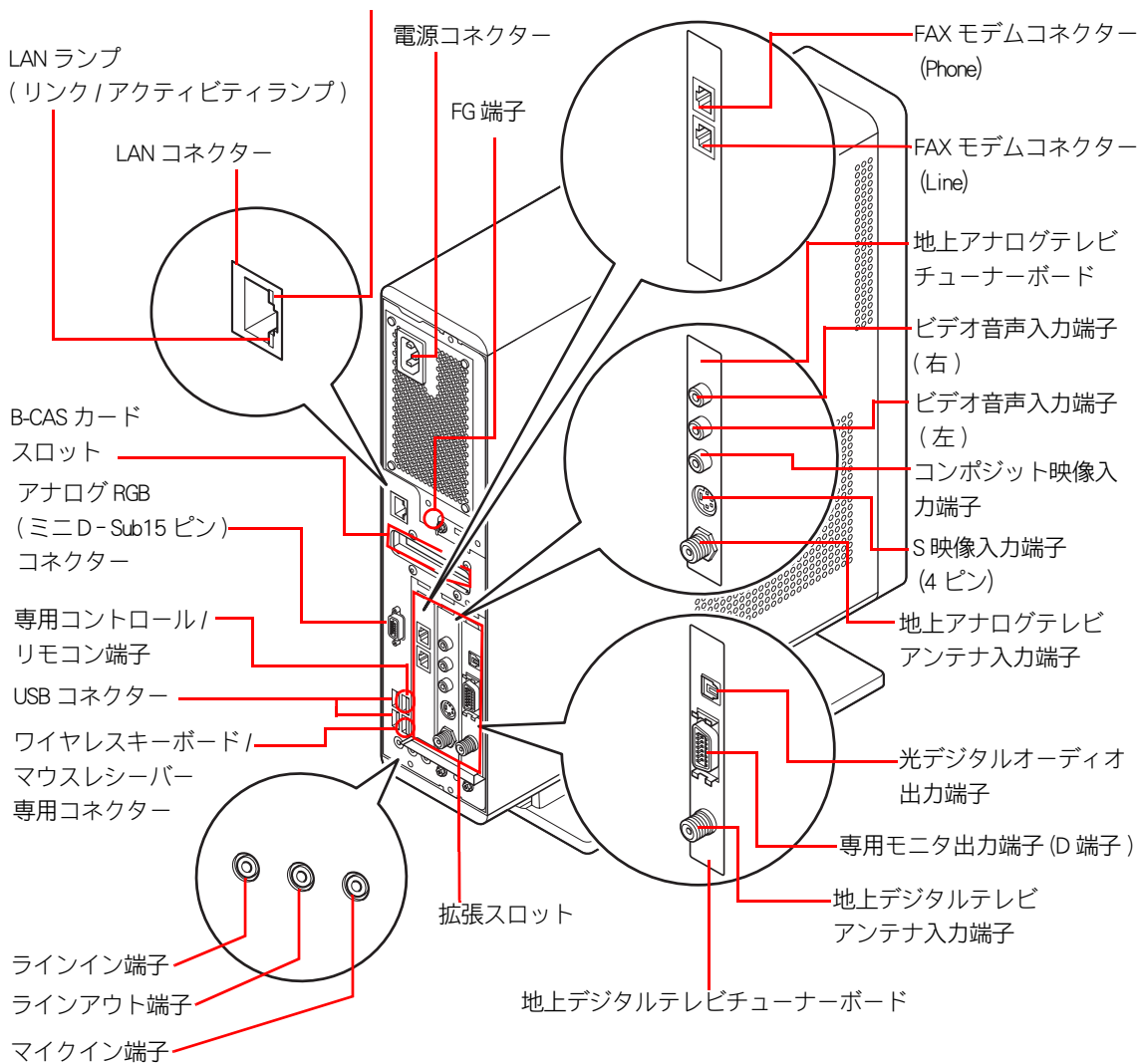
ランプの状態で CD/DVD がデータを読み書きしているか確認できます。

パソコンの状態	CD/DVD ドライブアクセスランプの状態	備考
CD/DVD ドライブ アクセス時	緑色に点滅	CD/DVD がデータの読み書きをしている

パソコン背面

■ ディスプレイありモデルの場合

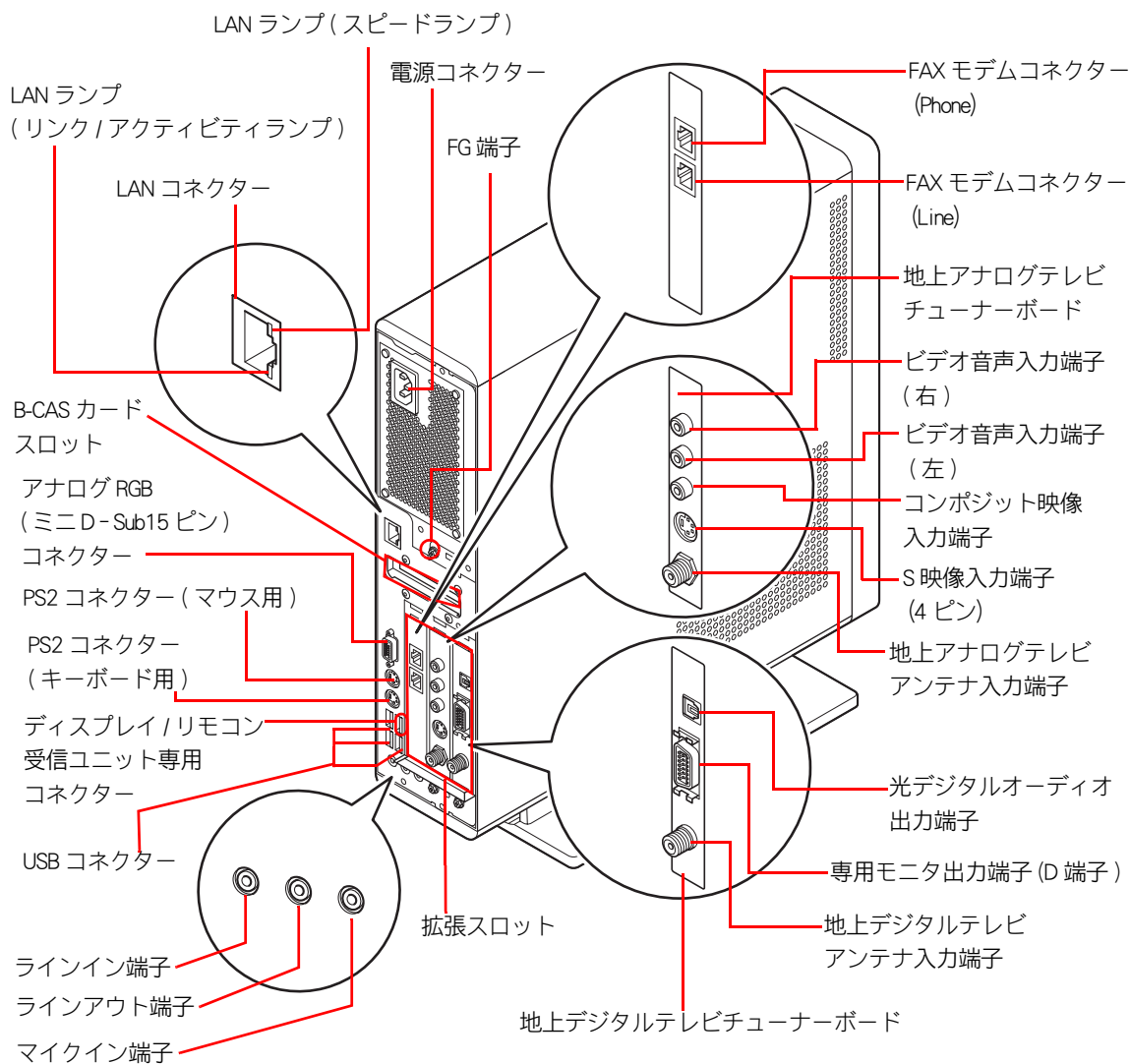
LAN ランプ(スピードランプ)



2

いろいろな使い方をするために

■ ディスプレイなしモデルの場合

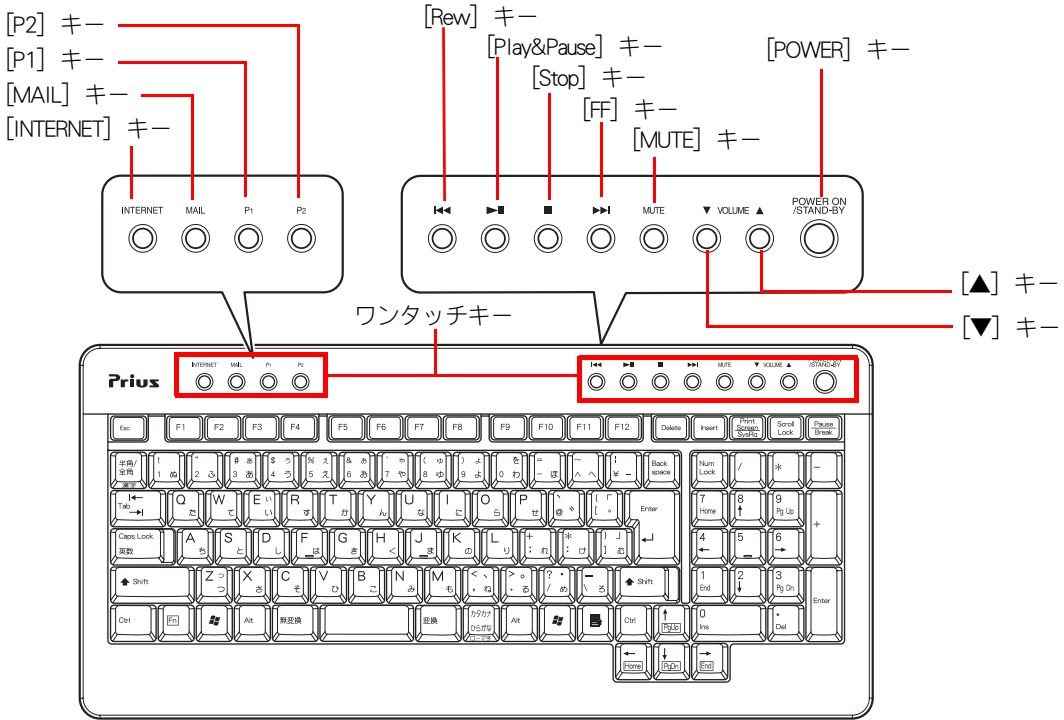


LAN ランプ

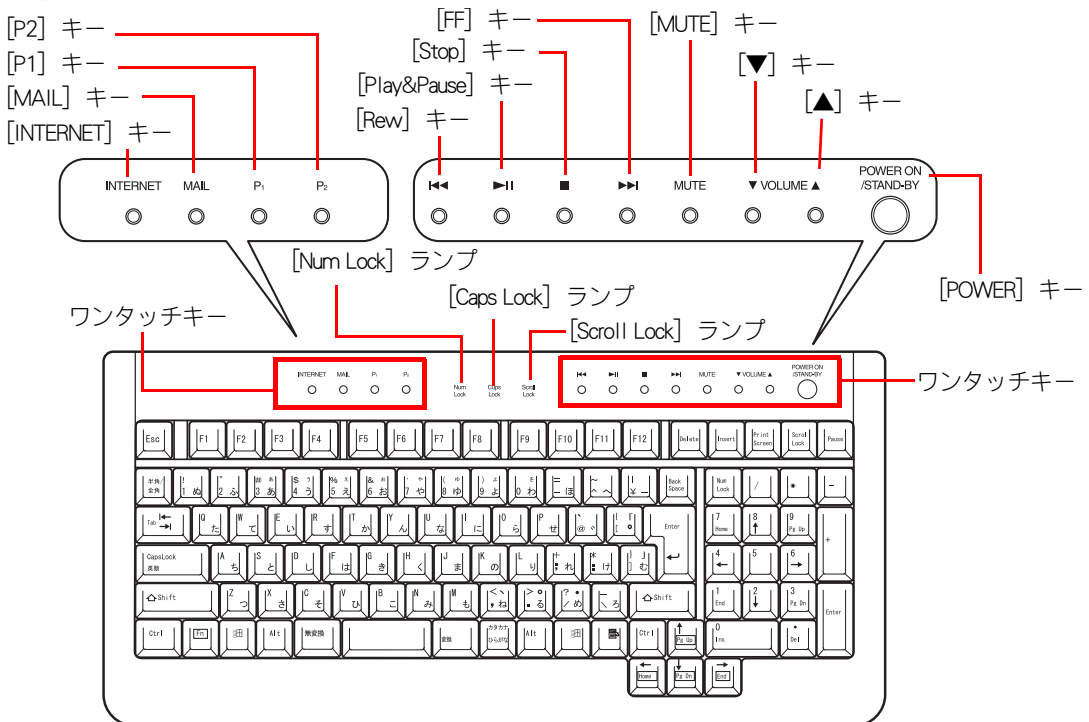
ランプ	点灯状態	通信の状態
スピードランプ	赤色点灯	1000Mbps で接続中
	緑色点灯	100Mbps で接続中
	消灯	10Mbps で接続中
リンク/アクティビティランプ (オレンジ色)	点滅	データ送受信中
	点灯	データ送受信を行っていない
	消灯	リンクが確立されていない

キーボード

ディスプレイありモデル



ディスプレイなしモデル



2

いろいろな使い方をするために

[Num Lock] ランプ

点灯：[Num Lock] キーを押すと、切り替えられます。
キーボードのテンキーの数字などの入力ができます。
消灯：[↑][↓][←][→]キーなどが入力できます。

[Caps Lock] ランプ

[Shift] キーを押しながら [Caps Lock] キーを押すと、切り替えられます。
点灯：大文字のアルファベットが入力できます。
消灯：小文字のアルファベットが入力できます。


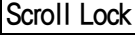
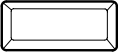




[Scroll Lock] ランプ





[Scroll Lock] キーを押すと切り替えられます。ランプが点灯しているときは、表示画面を移動できません。ランプが消灯すると移動できるようになります。ソフトウェアによって動作が異なる場合があります。








※ヒント ● 「Num Lock」「Caps Lock」「Scroll Lock」のインジケータを画面に表示させることもできます。

参照 → 画面表示について→電子マニュアル『パソコン応用』1章の「ワンタッチキーを設定する」

キー	使い方
テンキー	数字を入力するときに使います。
F1 ~ F12	ファンクションキーといいます。アプリケーションソフトなどで、特定の機能を割り当てて使います。
↑ ↓ ← →	カーソルキーといいます。カーソルをキーの矢印の方向に動かすときに使います。
Ctrl Alt Fn Shift	ほかのキーと組み合わせて使います。
文字キー	文字を入力するときに使います。
Backspace	カーソルの前（左）の文字を削除するときに使います。
Delete	カーソルの後ろ（右）の文字を削除するときに使います。
Insert	文字の入力方法を、挿入モードか上書きモードに切り替えます。
Enter	日本語入力の確定や改行などに使います。
Esc	操作を取り消したりするときに使います。
Tab	タブを挿入するときなどに使います。
Caps Lock	[Shift] キーを押しながらこのキーを押すと、標準では英大文字の入力モードになります。

キー	使い方
	テンキーで数字を入力するモードに切り替えます。
	画面表示の制御に使います。
変換 (次候補)	日本語入力で読みを漢字に変換します。
半角 / 全角	日本語入力をオン / オフするときに使います。
無変換	日本語入力の際に、無変換モードにします。
 (スペース)	1文字分のスペース (空白) を入力したり、読みを漢字に変換するときに使います。
	カーソルを行の先頭に移動するときに使います。
	カーソルを行の末尾に移動するときに使います。
 	ページをスクロールするときに使います。

※ ヒント ● 、、、 は、[Fn] キーを押しながら [←]、[→]、[↑]、[↓] キーを押します。

キー	使い方
	Windows キーといいます。スタートメニューを表示させるときに使います。
	プログラムキーといいます。マウスを右クリックしたときと同じ働きをします。
 (Stop)	DVD-ROM や CD-ROM などの再生を停止するときに使います。
 (Play&Pause)	DVD-ROM や CD-ROM などを再生したり、一時停止するときに使います。
 (Rew)	DVD-ROM や CD-ROM などの再生時に前のトラックに戻すときに使います。
 (FF)	DVD-ROM や CD-ROM などの再生時に次のトラックへ進めるときに使います。
 (VOLUME)	スピーカーの音量を下げるときに使います。

キー	使い方
○ (MUTE)	スピーカーの音を消したり元に戻すときに使います。
○▲ (VOLUME)	スピーカーの音量を上げるときに使います。
○ (INTERNET)	インターネットをワンタッチで立ち上げるときに使います。
○ (MAIL)	メールソフトをワンタッチで立ち上げるときに使います。
○ (POWER)	パソコンの電源を入れたり切ったりできます。
P1 ~ P2	各キーに割り当てられているアプリケーションをワンタッチで立ち上げるときに使います。

参照 → キーボードの使い方について→電子マニュアル『パソコン入門』1章の「キーボードを使う」

参照 → ワンタッチキーの設定変更について→電子マニュアル『パソコン応用』1章の「ワンタッチキーを設定する」

※ ヒント

- リモコンの[電源]ボタンでもパソコンの電源を入れたり切ったりできます。
- 電源コードを接続した直後は、キーボードの[POWER]キーまたは、リモコンの[電源]ボタンから立ち上げられません。一度Windowsを立ち上げ、Windowsを終了して電源を切ってから、キーボードの[POWER]キーまたは、リモコンの[電源]ボタンから立ち上げることができます。

CD/DVD ドライブのディスクの入れ方／取り出し方

2

いろいろな使い方をするために

1 CD/DVD ドライブアクセスランプが消灯し、CD/DVD ドライブがアクセスしていないことを確認する

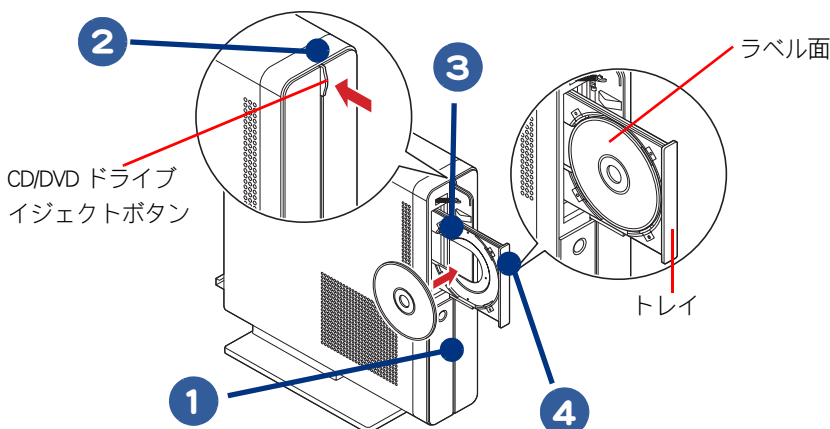
2 CD/DVD ドライブイジェクトボタンを押す

トレイが出てきます。

3 ディスクのラベル面を左に向け、手を添えながらディスクホルダーにディスクを固定する

ディスクを取り出すときは、イジェクトボタンを押してトレイを出し、ディスクに手を添えながら取り出します。

4 トレイを軽く押して閉める。
または、ドア内部の CD/DVD ドライブイジェクトボタンを押して閉める



- 重要**
- CD/DVD ドライブがアクセス中は、トレイを出さないでください。ドライブまたはディスクが壊れることがあります。
 - トレイを出し入れするときに、トレイを無理に引き出したり、押し込んだりしないでください。ドライブが壊れることがあります。ディスクをセットしたり、取り外すとき以外は、トレイを出さないでください。
 - ノンカートリッジまたは、カートリッジから取り出すことのできる DVD-RAM メディアのみ使用できます。DVD-RAM TYPE1 メディアは、カートリッジから取り出せないため、使用できません。
 - ディスクの読み取り部が指紋などで汚れると、読み取りエラーや映像のコマ落ちが発生します。
 - CD/DVD ドライブから再生した映像は、専用モニタ出力端子からは出力されません。アナログ RGB(ミニ D-Sub15ピン)コネクターからのみ出力されます。

- ※ヒント**
- パソコンの電源が入っていないと、トレイは出てきません。
 - 使用しているアプリケーションソフトによっては、アプリケーション画面の取り出しボタンを押さないと、トレイが出てこない場合があります。
 - ディスクをセットしトレイを閉めると、ディスクの動作を選択する画面が表示されることがあります。
 - トレイを閉めた直後は、CD/DVD イジェクトボタンを押してもトレイが開かない場合があります。CD/DVD ドライブアクセスランプが消灯していることを確認してから、再度 CD/DVD イジェクトボタンを押してください。

- 重要**
- ディスクの強制取り出しは、パソコンカバーを取り外して行ってください。

参照 → パソコンカバーの取り外し→電子マニュアル『パソコン応用』3章の「パソコンカバーの取り外し/取り付け」

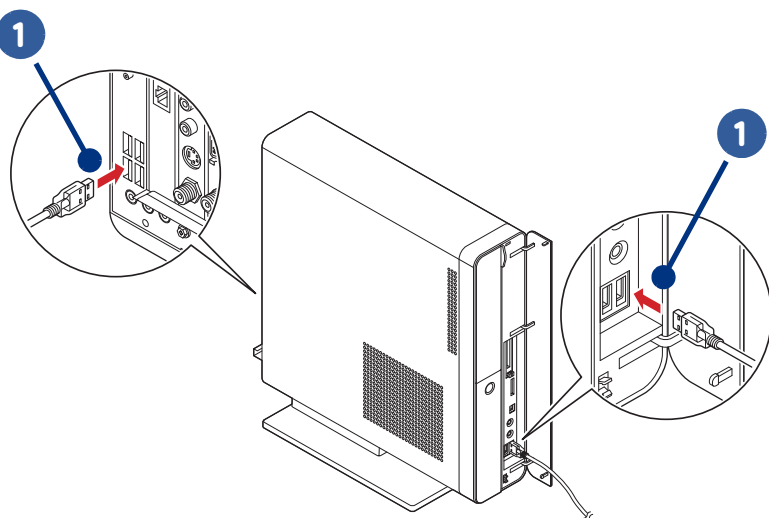
- 重要** ● 8cm CD-ROM などを使用する場合は、パソコンを横置きでご使用ください。
また、名刺型ディスクなどの変形ディスクは使用できません。これらのディスクはアダプターを取り付けても使用できません。

参照 → 使用できるディスクの種類 → 「ドライブの仕様」(P.85)

FD の入れ方／取り出し方

ここでは、外付けの USB FDD(オプション) の接続方法について説明します。

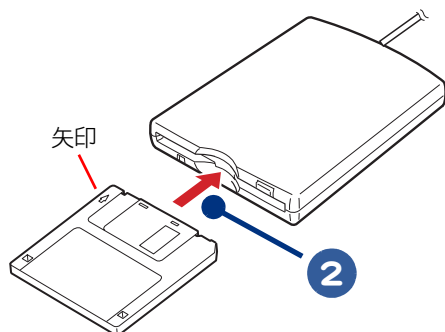
1 パソコン前面または背面の USB コネクタのどれかに、FDD の USB ケーブルを接続する



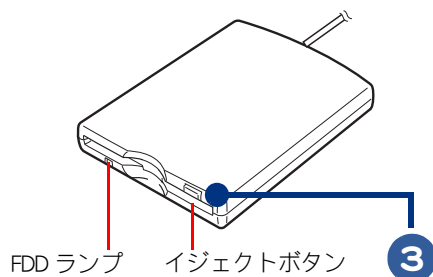
- 重要** ● コネクタには上下の向きがあります。コネクタの形を確認して取り付けてください。誤った向きで無理に押し込むと、コネクタ破損の原因となります。
- パソコン背面への接続の場合、縦置きで右上にある USB コネクタは、専用コネクタです。ディスプレイ以外は接続しないでください。
ディスプレイありモデル : 専用コントロール/リモコン端子
ディスプレイなしモデル : ディスプレイ/リモコン受信ユニット専用
- ディスプレイありモデルの場合、縦置きで右下の USB コネクタは、ワイヤレスキーボード/マウスレシーバー専用端子です。ワイヤレスキーボード/マウスレシーバーの接続ケーブル以外は接続しないでください。
- FDD は上下を逆にしないでください。
- FDD は AC アダプターから 30cm 以上、またパソコンからはなるべく離してご使用ください。
- FDD を取り外すときは、FDD に FD が入っていないことを確認してください。FD が壊れることがあります。



- 2** FD の表側（ラベルをはる面）を上に向け、矢印を FDD に向け、「カチッ」と音がするまで押し込む



- 3** FDD ランプが点灯していないことを確認して、イジェクトボタンを押す



重要

- FDD ランプの点灯、点滅中に FD を出し入れすると、FDD または FD が壊れることがあります。
- パソコンの電源を切るときは、FD を取り出してからにしてください。FD を入れたまま電源を切ると、FD が壊れることがあります。また、FD を入れたまま電源を入れると、パソコンが立ち上がらないことがあります。

参照

→ FD のフォーマット方法について→電子マニュアル『パソコン入門』3章の「フロッピーディスクをフォーマットしよう」

- 4** FD が出てくるので、FDD から取り出す

2
いろいろな使い方をするために



3

章

3章 再セットアップ

ここでは、パソコンをご購入時の状態に戻すまでの方法について説明します。パソコンの使用中にエラーが何回も発生したり、パソコンが立ち上がらないときは、再セットアップしてください。

>> ・再セットアップについて (P.62)

再セットアップについて

作業の流れ

パソコンをご購入時の状態に戻すまでの作業の流れは次のとおりです。

1 準備する

再セットアップする前に必要なファイルのバックアップをとります。インターネットやメールなどの設定も控えておきます。

参照 → 詳細について→「1 準備する」(P.63)

2 一括インストールを行う

一部のアプリケーションを除いて、パソコンをご購入時の状態に戻します。

参照 → 詳細について→「2 一括インストールを行う」(P.65)

3 アプリケーションをインストールする

一括インストールで元に戻らないアプリケーションをインストールします。

参照 → 詳細について→「3 アプリケーションをインストールする」(P.72)

4 電子マニュアルをインストールする

一括インストールで元に戻らない電子マニュアルをインストールします。

参照 → 詳細について→「4 電子マニュアルをインストールする」(P.74)

1 準備する

次の準備を行ってください。

■ 必要なファイルをバックアップする

ご購入時の状態に戻すと、それまでに作成したファイルや、追加したアプリケーションなどが削除されます。CD-R や CD-RW などのディスクに必要なファイルをコピーしてバックアップをとってください。

バックアップファイルを戻せるように元のフォルダー名など、保存先も控えてください。

- 参照** →
- ・ コピーの方法について → 電子マニュアル『パソコン入門』3章の「ファイルをコピーしよう」
 - ・ バックアップの方法について
→ 電子マニュアル『パソコン応用』6章の「データのバックアップ」
→ 電子マニュアル『使おう！アプリケーション』5章の「[安心楽々引越しバック] でデータを移動する」
 - ・ データ保存場所について → 電子マニュアル『使おう！アプリケーション』6章の「標準のユーザーデータ保存場所」

■ インターネットの設定を控える

ご購入時の状態に戻したあと、加入しているプロバイダーに再び接続できるように、ユーザー名、パスワード、アカウント名など、インターネットの設定に必要な情報をメモしてください。通常は、契約時にプロバイダーから送付された書類にこれらの情報が記載されています。

■ USB などの周辺機器を取り外す

USB 機器などの周辺機器は、取り外してください。

■ メモリーカードを取り外す

メモリーカードは、取り外してください。

※ ヒント ● メモリーカードを取り付けているときは、取り付けたカードをパソコンから取り外してください。外さないで正しく動作しない場合があります。

参照 → ● メモリーカードの取り外しについて → 電子マニュアル『パソコン応用』3章の「メモリーカードを使う」

■ BIOS の設定をご購入時の状態に戻す

BIOS の設定を変更している場合は、BIOS をご購入時の状態に戻してください。BIOS の設定をご購入時の状態に戻す（初期化する）ことで解決できる問題もあります。

ご購入時の状態から設定を変更している場合は、設定内容をあらかじめ控えておき、BIOS を初期化したあとに設定し直してください。

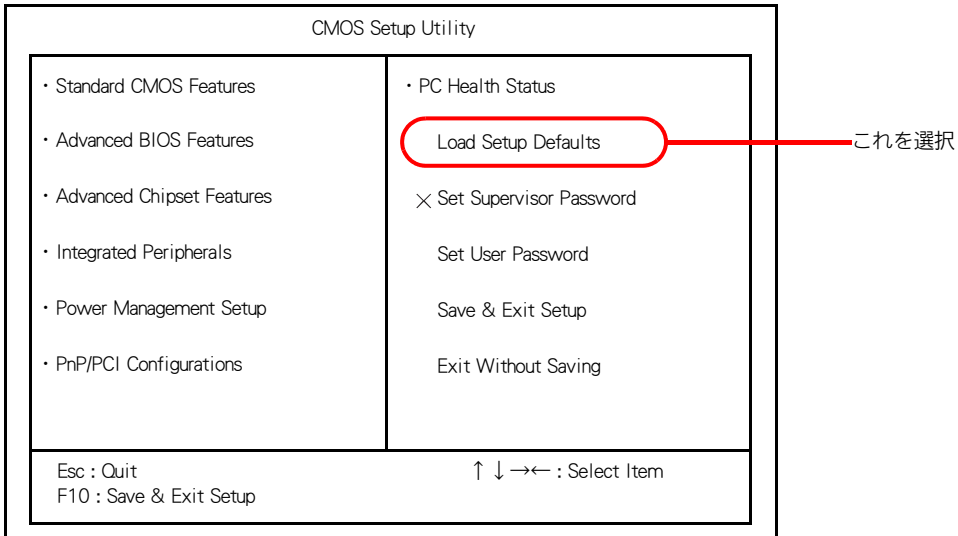
1 パソコンの電源を入れる。

パソコンの立ち上げ中、画面下部に「Press DEL to enter SETUP, F12 to enter BOOT MENU」と表示されたら、[Delete] キーを押す

BIOS メニューが立ち上がります。

重要 ● ディスプレイによっては、電源を入れても画面表示に時間がかかり、「HITACHI」ロゴやメッセージが表示されない場合があります。この場合、パソコンの電源を入れてから約 15 秒間 [Delete] キーを押し続けて、BIOS メニューを立ち上げてください。

- 2 [↑]、[↓]キーで、[Load Setup Defaults]を選び、[Enter]キーを押して、「Load Setup Defaults (Y/N)?」と表示されたら[Y]キー、[Enter]キーを押す



- 3 [F10] キーを押す

- 4 [SAVE to CMOS and EXIT (Y/N) ?] と表示されたら [Y] キーを押し、[Enter] キーを押す

設定した内容が保存され、BIOS メニューが終了しパソコンが立ち上げ直されます。

※ヒント ● BIOS メニューで「Save & Exit Setup」を選び、[Enter] キーを押しても同じ操作ができます。

■ 必要なディスクを用意する

パソコンに付属の、次のディスク類を使用します。

- ・ 『再セットアップディスク (Disc1)』
- ・ 『Microsoft® Office Personal Edition 2003』
- ・ 『Microsoft® Office Home Style*』
- ・ 『アプリケーションディスク (Disc1)』
- ・ 『Prius Navistation ディスク』
- ・ 『活用百科』

2 一括インストールを行う

この作業を行うと、一部のアプリケーションを除いてパソコンのHDDをご購入時に近い状態に戻します。さらに、ドライブCのサイズを変更したり、ドライブCのみ購入時の状態に戻すこともできます。

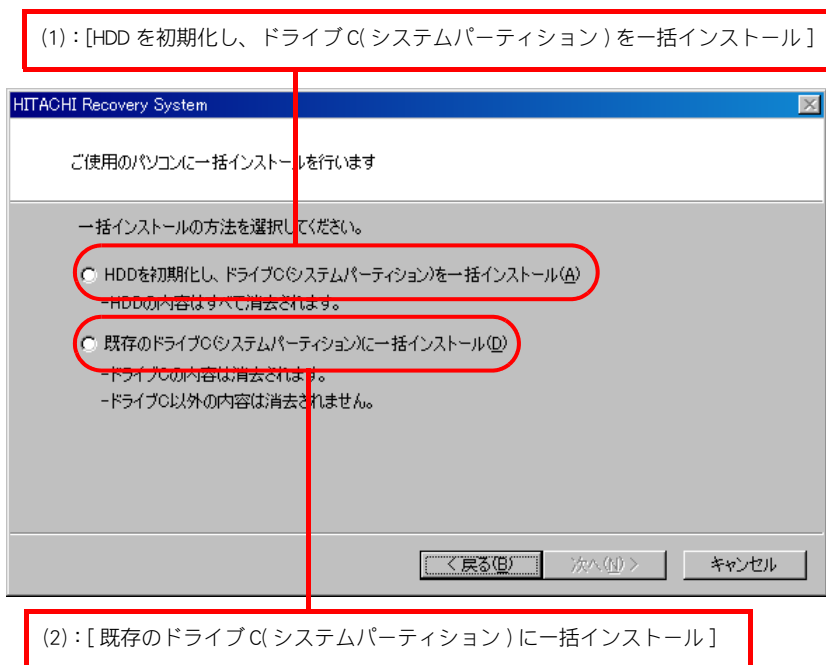
あらかじめ、パソコンに付属されている次のディスクを用意してください。

- ・『再セットアップディスク (Disc1)』

一括インストールには、次の方法があります。

選択肢	消去されるデータ	使用するディスク
(1) [HDDを初期化し、ドライブC(システムパーティション)を一括インストール]	ハードディスクすべての内容	・『再セットアップディスク (Disc1)』
(2) [既存のドライブC(システムパーティション)に一括インストール]	現在のドライブCの内容	・『再セットアップディスク (Disc1)』

- ※ヒント** ● [HDDを初期化し、ドライブC(システムパーティション)を一括インストール]を選択した場合、HDDの領域すべてを消去して、ご購入時の状態に戻します。[既存のドライブC(システムパーティション)に一括インストール]を選択した場合、ドライブCのみご購入時の状態に戻します。ほかの領域は変更ありません。



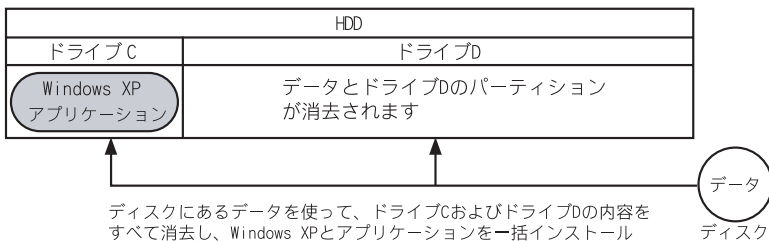
- ▲重要** ● 通常は、(2) : [既存のドライブC(システムパーティション)に一括インストール]を選択してください。
 (1) : [HDDを初期化し、ドライブC(システムパーティション)を一括インストール]を選択した場合は、すべてのHDD領域が消去されます。
 パーティションの設定は、ある程度パソコンについての知識が必要です。初心者やHDDの知識をあまりお持ちでない方にはお勧めできません。特に問題がない場合は、ご購入時のままの領域でお使いください。

■ 一括インストールのイメージ

次のイラストは、一括インストールの説明のためにイメージ化したものです。

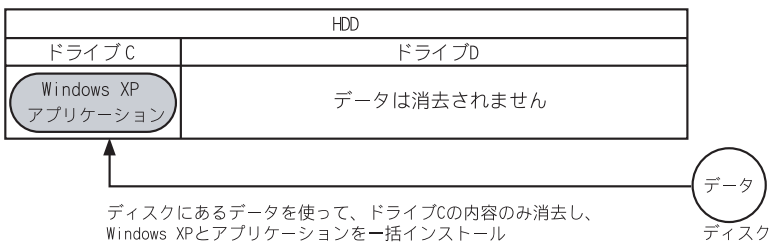
★メニュー画面で(1): [HDDを初期化し、ドライブC(システムパーティション)を一括インストール]を選択した場合

HDD すべての内容が消去され、Windows XP とアプリケーションのインストール



★メニュー画面で(2): [既存のドライブC(システムパーティション)に一括インストール]を選択した場合

現在のドライブCの内容が消去され、Windows XP とアプリケーションのインストール



参照 → パーティション設定について→電子マニュアル『パソコン応用』4章の「パーティションの設定」

■ 一括インストール手順

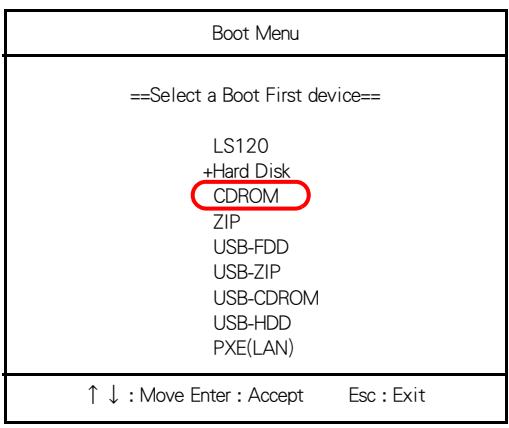
1 パソコンの電源を入れ、パソコンの立ち上げ中、画面下部に「Press DEL to enter SETUP,F12 to enter BOOT MENU」と表示されたら、[F12] キーを押す

[Boot Menu] 画面が表示されます。

- 重要**
- [Boot Menu] 画面が表示されず Windows が立ち上がってしまった場合は、一度パソコンの電源を切り、パソコンの電源を入れ直してください。
 - ディスプレイによっては、電源を入れても画面表示に時間がかかり、「HITACHI」ロゴやメッセージが表示されない場合があります。この場合、パソコンの電源を入れてから約 15 秒間 [F12] キーを押し続けて、[Boot Menu] 画面を表示してください。

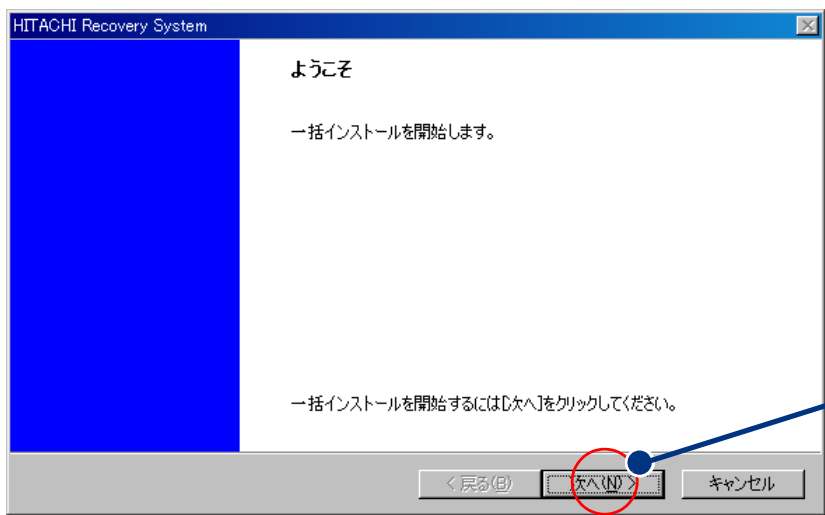


2 CD/DVD ドライブに『再セットアップディスク (Disc1)』を入れ、カーソルを [CDROM] に合わせて [Enter] キーを押す



[ようこそ] 画面が表示されます。

3 [次へ] ボタンをクリック



[ご使用のパソコンに一括インストールを行います] 画面が表示されます。

- ※ ヒント**
- 一括インストールを中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。インストール中止の [確認] 画面が表示されますので、[はい] ボタンをクリックしてください。自動でパソコンが立ち上げ直されます。

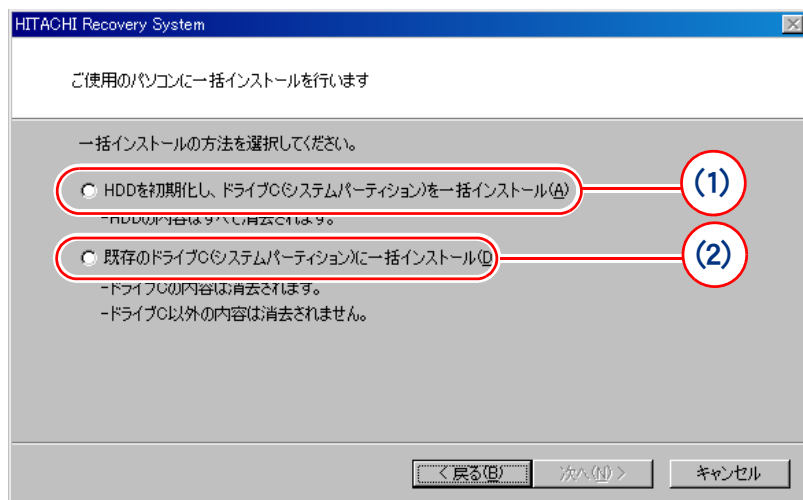
4 セットアップ方法を選択し、[次へ]ボタンをクリック。 セットアップ方法は、次の2つから選択。

(1) : [HDDを初期化し、ドライブC(システムパーティション)を一括インストール]

→(1)を選んだ場合は、手順7に進む

(2) : [既存のドライブC(システムパーティション)に一括インストール]

→通常はこちらを選択。(2)を選んだ場合は、次の手順5に進む

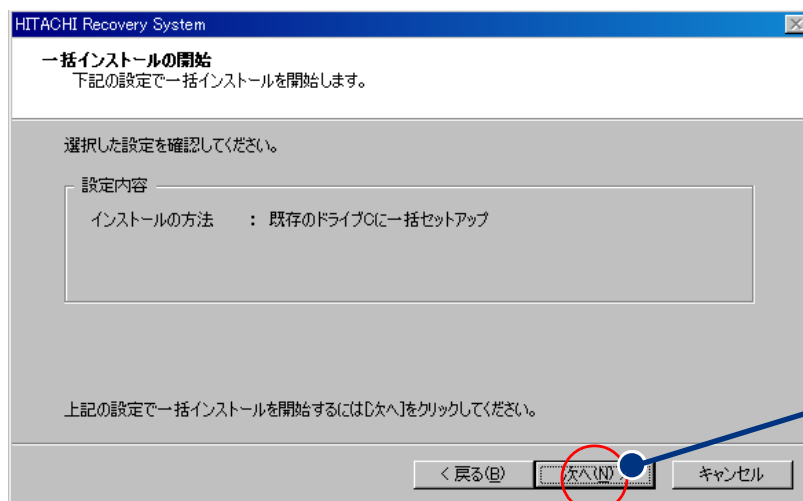


- * (1) を選ぶと、OS やアプリケーションなどをドライブCに回復します。ドライブC以外のパーティションも初期化されます。
- * (2) を選ぶと、OS やアプリケーションをドライブCに回復します。ドライブC以外のパーティションは初期化されません。ドライブCのパーティションサイズは変更できません。

重要 ●工場出荷時のドライブCは、ご購入時に選択されたHDDの容量により、次のようにパーティションが設定されています。

150GB未満のHDD	: 20GB
150GB以上のHDD	: 30GB

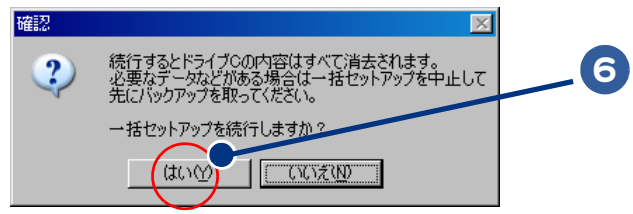
5 [一括インストールの開始]画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリック。 一括インストールを中止する場合は、[キャンセル]ボタンをクリック



[確認]画面が表示されます。

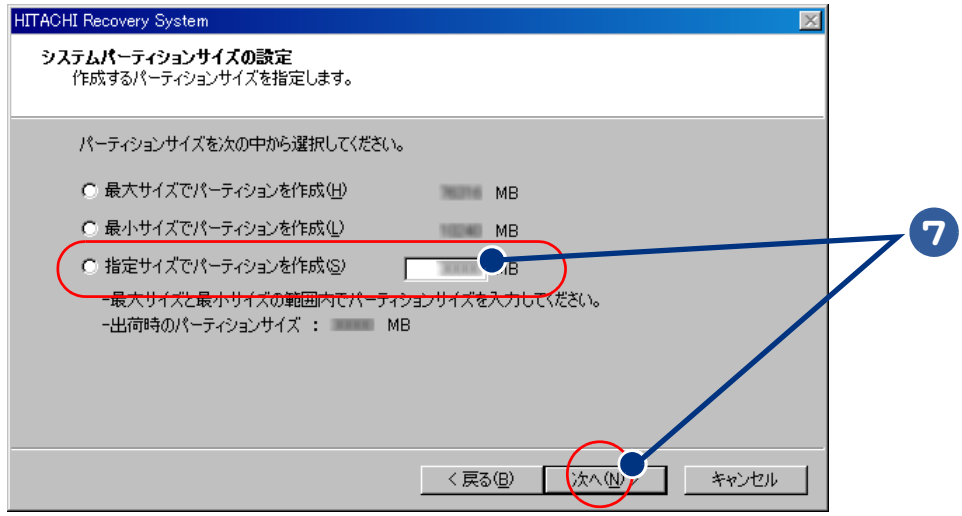


6 [はい] ボタンをクリックして、手順 10 へ進む。
[いいえ] ボタンをクリックすると、手順 5 へ戻る



- 重要**
- [はい] ボタンをクリックすると、Cドライブの内容はすべて消去されます。必要なデータなどがある場合は、インストールを中止して、先にバックアップを取ってください。
 - [はい] ボタンをクリックしたあとは、インストールを中止できません。

7 手順 4 で (1) を選んだ場合は、[システムパーティションサイズの設定] 画面が表示されるので、[指定サイズでパーティションを作成] を選択し、新規に作成するドライブ C のパーティションサイズを入力して、[次へ] ボタンをクリック



- * [最大サイズでパーティションを作成] を選ぶと、ハードディスクの最大サイズでドライブ C を作成します。
- * [最小サイズでパーティションを作成] を選ぶと、ハードディスクの最小サイズでドライブ C を作成します。

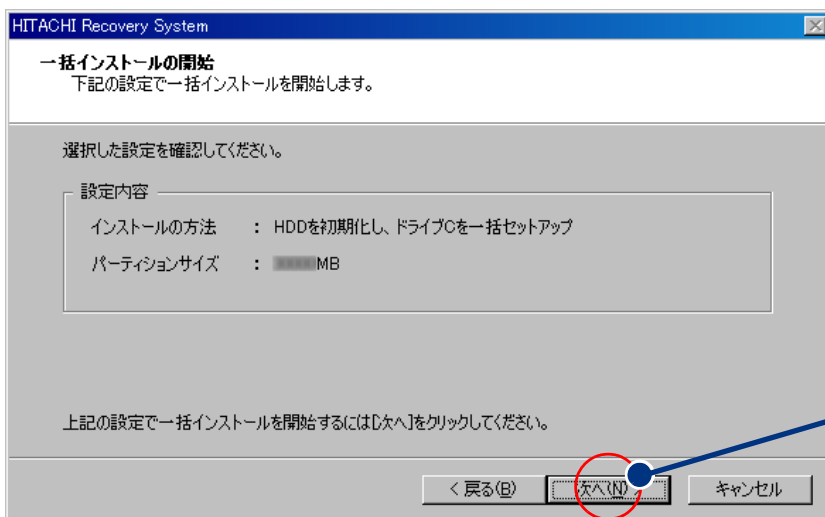
- 重要**
- 工場出荷時のドライブ C は、ご購入時に選択された HDD の容量により、次のようにパーティションが設定されています。
150GB 未満の HDD : 20GB
150GB 以上の HDD : 30GB
 - [指定サイズでパーティションを作成] を選び、任意のパーティションサイズを入力する場合、最大サイズを超えない値でかつ、最小サイズを下回らない値を入力してください。

参照 → パーティション設定について→電子マニュアル『パソコン応用』4章の「パーティションの設定」

3

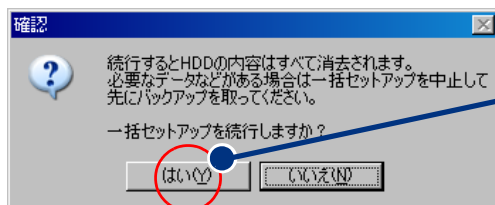
再
セ
ッ
ト
ア
ッ
プ

- 8** [一括インストールの開始]画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリック。
一括インストールを中止する場合は、[キャンセル]ボタンをクリック



[確認]画面が表示されます。

- 9** [はい]ボタンをクリックして、手順10へ進む。
[いいえ]ボタンをクリックすると、手順8へ戻る

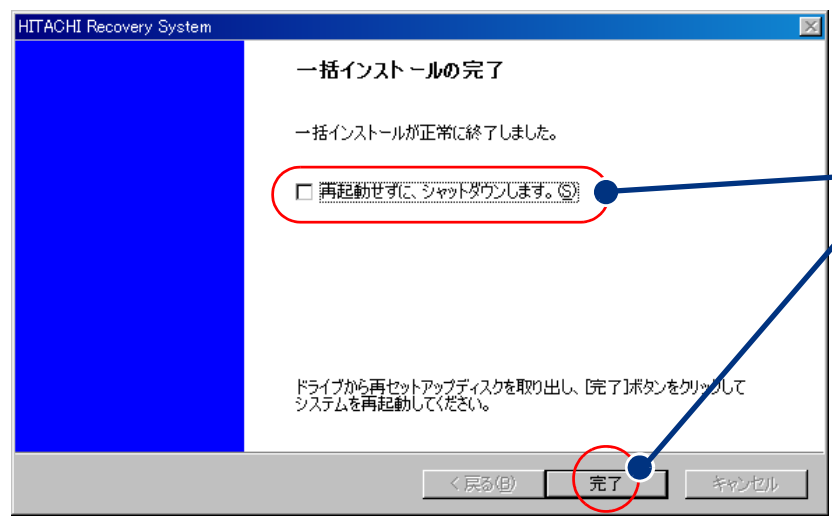


- 重要**
- [はい]ボタンをクリックすると、HDDの内容はすべて消去されます。必要なデータなどがある場合は、インストールを中止して、先にバックアップを取ってください。
 - [はい]ボタンをクリックしたあとは、インストールを中止できません。

- 10** OSの回復作業が終了し、[一括インストールの完了]画面が表示されたら、パソコンから『再セットアップディスク (Disc1)』を取り出す



11 [再起動せずに、シャットダウンします。]にチェックが入っていないことを確認し、[完了]ボタンをクリック



パソコンが立ち上げ直されます。

12 以降、Windows のセットアップ手順に従って、Windows 環境をセットアップする

参照 → セットアップ手順について → 「使用許諾契約に同意しよう」(P.38)

重要 ● 次項の「3 アプリケーションをインストールする」に進むには、Windows のセットアップが必要です。

3 アプリケーションをインストールする

一括インストールで、元に戻らないアプリケーションを Windows のセットアップ後にインストールします。添付ソフトウェアの CD-ROM、『アプリケーションディスク (Disc1)』、『活用百科』 CD を使います。

重要 ● アプリケーションをインストールするときは、管理者権限を持つユーザー（アカウント）で行ってください。

添付ソフトウェアの CD-ROM からのインストール (Office Personal 2003 モデルのみ)

詳細については、各添付ソフトウェアに付属のマニュアルをご参照ください。

★ Microsoft® Office Personal Edition 2003 (with Service Pack2)

付属の『スタートガイド』をご参照ください。

インストール時にセットアップオプションを選べます。必要に応じて選んでください。

添付の CD-ROM からインストールしたあと、HDD イメージからのインストールが必要です。

重要 ● 添付の Microsoft® Office Personal Edition 2003 をインストールし直した場合、ライセンス認証が必要です。ライセンス認証を受けない場合、立ち上げ回数が許諾回数を超えると、ファイルの作成更新などの機能が使用できなくなります。ライセンス認証の方法は、『スタートガイド』をご参照ください。

参照 → HDD イメージからのインストール → 電子マニュアル『パソコン応用』4章の「HDD イメージからのインストール」

★ Microsoft® Office Home Style+ (with Service Pack2)

付属の『スタートガイド』をご参照ください。

ご利用になるには、Microsoft® Office Personal Edition 2003 がインストールされている必要があります。

添付の CD-ROM からインストールしたあと、HDD イメージからのインストールが必要です。

参照 → HDD イメージからのインストール → 電子マニュアル『パソコン応用』4章の「HDD イメージからのインストール」

★ はじめてソフトを立ち上げた時の対応

次のアプリケーションをインストールしたあと、はじめて立ち上げたときは、番号などの入力が必要です。

アプリケーション名	番号の名称と記載場所
Microsoft® Office Personal Editon 2003	CD キー（25 桁） CD-ROM ケースの裏側 ライセンス認証

『Prius Navistation ディスク』からのインストール

次のアプリケーションは、『Prius Navistation ディスク』からインストールします。

★ Prius Navistation4

1 パソコンを立ち上げ、このパソコンに付属の『Prius Navistation ディスク』を CD/DVD ドライブに入れる

2 [スタート] ボタン - [ファイル名を指定して実行] をクリック

[ファイル名を指定して実行] が表示されます。

3 e:¥instmenu と入力し、[OK] ボタンをクリック

* e は CD/DVD ドライブ名

[アプリケーション インストールメニュー] が表示されます。

4 [Prius Navistation4] にチェックを付ける



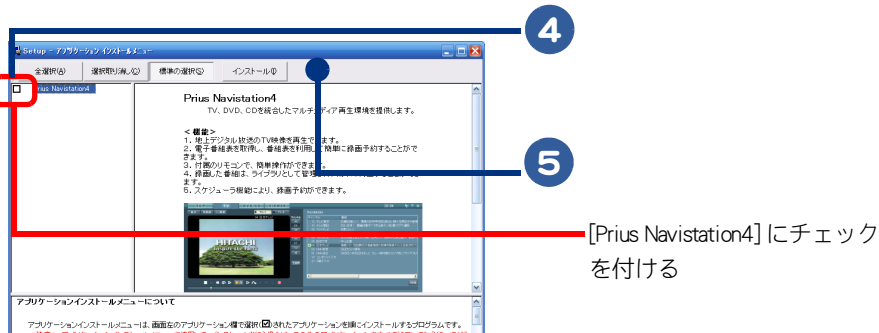
- [スタート] メニューに登録されているプログラムのフォルダー名は変更しないでください。インストールするアプリケーションを正常に判断できなくなります。



- [アプリケーション インストールメニュー] の立ち上げ時は、インストールされていないアプリケーションにチェックが付いています。[全選択] ボタンをクリックすると、すべてのアプリケーションにチェックが付きます。[選択取り消し] ボタンをクリックすると、アプリケーションのチェックがすべて消えます。[標準の選択] ボタンをクリックすると、[アプリケーション インストールメニュー] 立ち上げ時の状態に戻ります。

5 [インストール] ボタンをクリック

インストールが始まり、インストール開始確認画面が表示されます。[キャンセル] ボタンをクリックすると、インストールは中止されます。



6 [OK] ボタンをクリック

7 以降、画面の指示に従って、インストールする

インストールが終了すると、「インストールを終了しました」とメッセージが表示されます。

8 [OK] ボタンをクリックし、ディスクを CD/DVD ドライブから取り出す

9 パソコンを立ち上げ直す

Windows が立ち上がり、アプリケーションが使用できるようになります。



- インストール中に画面表示が数十秒間変化しない場合があります。しばらくお待ちください。

『アプリケーションディスク (Disc1)』からのインストール

次のアプリケーションは、『アプリケーションディスク (Disc1)』からインストールします。詳細については、電子マニュアル『パソコン応用』をご参照ください。

★筆ぐるめ Ver.13 for HITACHI

★マカフィー®・ウイルススキャン (90 日間サポート)、
マカフィー®・パーソナルファイアウォールプラス (90 日間サポート)

★読みワザ

★ATLAS 翻訳パーソナル 2006 LE

★プリウスナビ ネットワークアドオンパック 2

参照 → 『アプリケーションディスク (Disc1)』からのインストール→電子マニュアル『パソコン応用』4章の「『アプリケーションディスク (Disc1)』からのインストール」

重要 ●一括インストールを行い、マカフィー・ウイルススキャンをインストールした場合、マカフィー・ウイルススキャンでファイルの登録が必要です。ファイルの登録を行わないと、パソコンが正常に動作しません。

参照 → 登録方法について→紙マニュアル『プリウスナビを楽しもう!』1章の「いろいろな操作はこの画面で」、「McAfee Personal Firewall Plus に関するご注意」

『活用百科』CDからのインストール

次のアプリケーションは、『活用百科』CDからインストールします。詳細については、電子マニュアル『パソコン応用』をご参照ください。

★オンラインサインアップソフト

参照 → 活用百科』CDからのインストール→電子マニュアル『パソコン応用』4章の「ドライバー、ユーティリティのセットアップ」、「オンラインサインアップソフト」

4 電子マニュアルをインストールする

一括インストールでは、電子マニュアルはインストールされません。
電子マニュアルは、『活用百科』CDを使ってインストールします。

1 CD/DVD ドライブに『活用百科』CDを入れる

Windows の実行する動作選択画面が表示されたときは、[何もしない] をクリックし、[OK] ボタンをクリックします。

2 『活用百科』CD 中の [Elemenu] アイコンをダブルクリック

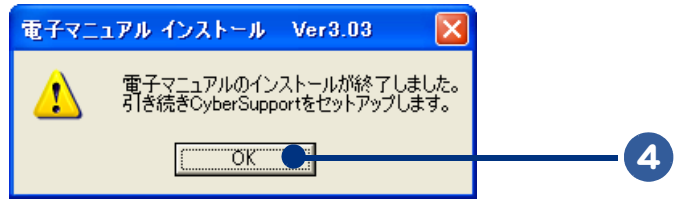
[電子マニュアルインストール Ver XXX] 画面が表示されます。

3 [OK] ボタンをクリック

電子マニュアルがインストールされます。

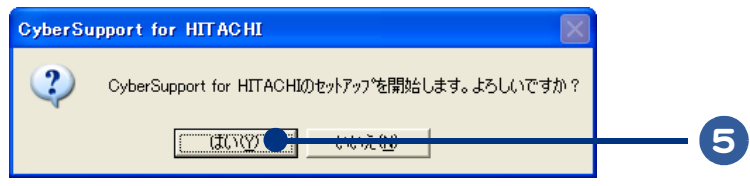


- 4** 「電子マニュアルのインストールが終了しました。引き続き CyberSupport をセットアップします。」とメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリック



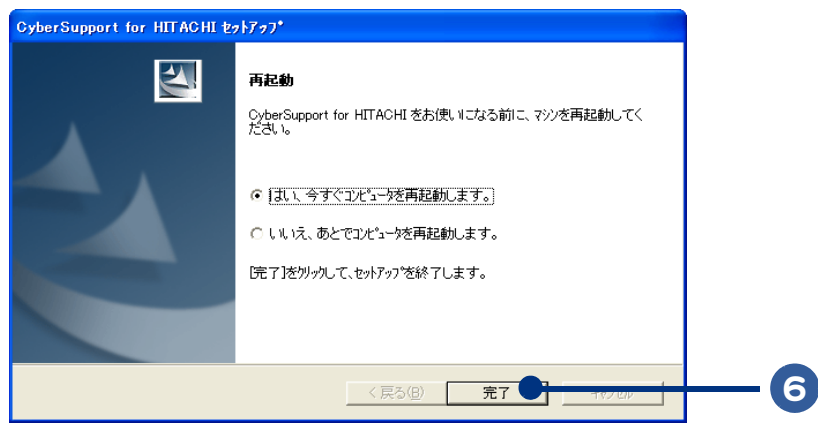
- 5** 「CyberSupport for HITACHI のセットアップを開始します。よろしいですか?」とメッセージが表示されたら、[はい] ボタンをクリック

CyberSupport がインストールされ、データベースが作成されます。



- 6** 次のメッセージが表示されたら、[完了] ボタンをクリック

パソコンが立ち上げ直されます。



※ヒント ● 「CyberSupport」についてのご質問は、「安心コールセンター」までお問い合わせください。株式会社ジャストシステムでは、お問い合わせを直接受け付けていません。



4

章

4章 技術情報

この章では、アプリケーション一覧とパソコンのシステム構成および仕様について説明します。

- >> ・アプリケーション一覧 (P.78)
- >> ・パソコン仕様一覧 (P.81)
- >> ・ドライブの仕様 (P.85)
- >> ・メモリーボードの仕様 (P.87)
- >> ・有寿命部品一覧 (P.88)
- >> ・オプション情報 (P.89)

アプリケーション一覧

アプリケーションは、HDD イメージや『再セットアップディスク (Disc1)』、『アプリケーションディスク (Disc1)』、各ソフトウェアに付属の CD を使ってインストールします。インストールで特別な制限や設定が必要なアプリケーションは、次の表の「設定」に○印があります。内容は、電子マニュアル『パソコン応用』4章の「各アプリケーションの制限や設定」をご参照ください。

重要 ● アプリケーションをインストールするときは、管理者権限を持つユーザー（アカウント）でインストールしてください。

※ ヒント ● 表の「一括インストール」に○印があるアプリケーションは、『再セットアップディスク (Disc1)』の「一括セットアップ」でインストールできます。モデルによっては○印がない場合があります。
● 表の「購入時」に○印のあるアプリケーションは、購入時にインストールされています。
● 表の「インストールプログラム」は、各アプリケーションを個別にインストールする場合のプログラム収録ディスクを表します。

	設定	一括インストール	購入時	インストールプログラム
アプリケーション一覧	○：必要 －：不要	○：可能 ×：不可	○：有り ×：無し	HDD：HDD イメージ DVD：再セットアップディスク (Disc1) または、アプリケーションディスク (Disc1) CD：付属の CD
Microsoft® Office Personal Edition 2003 (with Service Pack2) *1	○	×	○	CD(Office Personal 2003)、HDD
Microsoft® Office Home Style+ (with Service Pack2) *1	○	×	○	CD(Office Home Style+)、HDD
DiXiM® Media Server	○	○	○	DVD(アプリケーションディスク (Disc1))
DiXiM® Media Client	○	×	×	
SD-VideoWriter	－	○	○	
WinDVD5 for HITACHI	○	○	○	
DVD Movie Writer 4 for HITACHI	○	○	○	
DVD-MovieAlbumSE 4	－	○	○	
DVD-RAM ドライバー	○	○	○	
RecordNow! 7.3	○	○	○	
Adobe Photoshop Album 2.0 Mini	－	○	○	
マウス吸着	－	○	○	
画面拡大	－	○	○	
読みワザ	－	×	○	
マカフィー®・ウイルススキャン (90日間サポート)	－	×	○	
マカフィー®・パーソナルファイアウォールプラス (90日間サポート)	－	×	○	
筆ぐるめ Ver.13 for HITACHI	○	×	○	
らくらく家計簿ゆとりちゃん7	○	○	○	
タイピングドリーム アフロ犬	○	○	○	

アプリケーション一覧		設定	一括インストール	購入時	インストールプログラム
		○：必要 －：不要	○：可能 ×：不可	○：有り ×：無し	
ATLAS 翻訳パーソナル 2006 LE		○	×	○	HDD：HDD イメージ DVD：再セットアップディスク (Disc1) または、アプリケーションディスク (Disc1) CD：付属の CD
駅すばあと		○	○	○	
AI 囲碁		○	○	○	
AI 将棋		○	○	○	
AI 麻雀		○	○	○	
プリウスナビ ネットワークアドオンパック 2		－	×	○	
Prius かんたんシリーズ	Prius かんたんランチャー	○	○	○	
	Prius かんたんファイルメール	○	○	○	
	Prius かんたん PC 設定	○	○	○	
	Prius かんたんファイルサーチ	○	○	○	
Dragh Drop CD+DVD	Dragh Drop CD+DVD 5 for HITACHI	○	×	×	
	安心楽々引越しパック *3	○	×	×	
	ノークリックバックアップ Auto-Grabber *3	○	×	×	
WYD		－	×	×	
Prius Navistation4	Prius Navistation4	－	×	○	CD(Prius Navistation ディスク)
	メール着信設定 *2	－	×	○	
Adobe Reader		－	○	○	CD (活用百科)
CyberSupport for HITACHI		－	×	○	
プラグイン	Java(TM)2 Platform Standard Edition Runtime Environment Version 5.0	－	○	○	
	goo スティック	－	○	○	
	Macromedia® Shockwave®	－	○	○	
	Macromedia® Flash® Player	－	○	○	
オンラインサインアップソフト	AOL	○	×	○	
	BIGLOBE	－	×	○	
	Yahoo! BB	－	×	○	
	OCN	－	×	○	
	ODN	－	×	○	
	So-net	○	×	○	
i-フィルター 4(30 日間使用可能)		－	×	×	HDD

		設定	一括インストール	購入時	インストールプログラム
アプリケーション一覧		○：必要 －：不要	○：可能 ×：不可	○：有り ×：無し	HDD：HDD イメージ DVD：再セットアップディスク (Disc1) または、アプリケーションディスク (Disc1) CD：付属の CD
わくわくナビ		－	○	○	DVD(再セットアップディスク (Disc1))
Prius ツール	Prius で楽しもう！	－	○	○	
	Prius サウンド REC	－	○	○	
	Prius 四字熟語	－	○	○	
	Prius 一文字	－	○	○	
	Prius 筆算	－	○	○	
	Prius デカ文字ツール	－	○	○	
	自動ログイン設定プログラム	－	○	○	

* 1 : Microsoft Office なしモデルには添付されません。

* 2 : Prius Navigation4 を選択すると同時にインストールされます。

* 3 : Drag'n Drop CD+DVD 5 for HITACHI をインストールすると、使用できるようになります。

パソコン仕様一覧

パソコンの仕様を紹介します。

製品名		Prius Air		
形名		PCF-AR35R1R	PCF-AR32G1R	PCF-AR31G1R
インストール OS 形式		Microsoft® Windows® XP Home Edition (With Service Pack2 セキュリティー強化機能対応)		
CPU (重要 1)	名称	インテル® Pentium® 4 プロセッサ 630	インテル® Celeron® D プロセッサ 351	
	動作周波数	3.0GHz	3.2GHz	
フロントサイド・バス		800MHz	533MHz	
チップセット		インテル® 915GV チップセット +ICH6		
キャッシュメモリー	1 次	12K μ OPs 実行トレース +16KB データ (CPU 内蔵)		
	2 次	2MB (CPU 内蔵)	256KB (CPU 内蔵)	
RAM	標準メモリー (ヒント 1)	1024MB(512MB × 2) (DDR2 SDRAM PC2-4200)	512MB (256MB × 2) (DDR2 SDRAM PC2-4200)	
	最大メモリー	2048MB		
	ビデオメモリー	最大 128MB(メインメモリーと共有)		
グラフィック (ヒント 2)	800 × 600 ドット時	65536 色 /1677 万色		
	1024 × 768 ドット時	65536 色 /1677 万色		
	1280 × 768 ドット時	65536 色 /1677 万色		
	1280 × 1024 ドット時	ディスプレイありモデル : - ディスプレイなしモデル : 65536 色 /1677 万色		
	1360 × 768 ドット時 (PCF-AR35R1R のみ)	65536 色 /1677 万色		
ディスプレイ	1600 × 1200 ドット時	ディスプレイありモデル : - ディスプレイなしモデル : 65536 色 /1677 万色		
	ディスプレイ	26 型ワイドアドバンスドスーパーピュアカラー液晶ディスプレイ (DT26AP)	-	
HDD (ヒント 3)		約 320GB		
ドライブ		DVD スーパーマルチドライブ (DVD ± R 2 層書き込み対応)		
カレンダー時計 (重要 2)		年月日、時分秒を刻時、刻時誤差 ± 150 秒 / 月		
FAX データモデム (ヒント 4、5)		DATA 56Kbps、FAX 14.4Kbps		
テレビチューナーボード	地上デジタルテレビチューナー	ハードウェア MPEG2 デコーダー付 (地上デジタル放送 : UHF 13 ~ 62ch)		
	地上アナログテレビチューナー	ハードウェア MPEG2 リアルタイムエンコーダー付 (VHF 1 ~ 12ch、UHF 13 ~ 62ch、CATV C13 ~ C63ch)		

製品名		Prius Air		
形名		PCF-AR35R1R	PCF-AR32G1R	PCF-AR31G1R
コネクタ	ラインイン	1個 (ステレオミニジャック)		
	ラインアウト	1個 (ステレオミニジャック) :ディスプレイ接続用		
	マイクイン (ヒント6)	2個 (ステレオミニジャック)		
	ヘッドホンアウト	1個 (ステレオミニジャック)		
	IEEE1394 S400(4ピン)	1個 (4ピン)		
	USB2.0	6個 (パソコン前面:2、 パソコン背面:4) 背面のうち1個は、専用コン トロール/リモコン端子 背面のうち1個は、ワイヤレ スキーボード/マウスレシー バー専用	6個 (パソコン前面:2、パソコン背面 :4) 背面のうち1個は、ディスプレイ/ リモコン受信ユニット専用	
	LAN	1個		
	キーボード	— (ワイヤレスキーボード)	1個 (PS/2)	
	マウス	— (ワイヤレスマウス)	1個 (PS/2)	
	アナログRGB(ミニ D-Sub15ピ ン)	1個		
テレビ チューナ ー ボード	地上デジタルテレ ビチューナ ー	テレビアン テナ入 力	1個	
		専用モニ タ出力端 子	1個	
		光デジタ ルオー ディオ出 力	1個	
	地上アナログテレ ビチューナ ー	テレビアン テナ入 力	1個	
		ビデオ音 声入力	1系統(ピンジャック右左)	
		ビデオ入 力	S映像端子×1 コンポジット端子×1	
拡張スロ ット	スロット1 (重要3)	PCI 規格 (ボードサイズ:幅 107mm、奥行 175mm以下)		
	スロット2 (重要4)	PCI 規格 (ボードサイズ:幅 107mm、奥行 175mm以下)		
	スロット3 (重要5)	PCI 規格 (ボードサイズ:幅 107mm、奥行 120mm以下)		
SDメモリーカードスロット/ メモリースティックスロット (重要6)	1個 SDメモリーカードスロット: (著作権保護機能付き) メモリースティックスロット: (著作権保護機能なし、メモリースティック PRO 対応)			
電源	周波数	50/60Hz		
	入力電圧	AC100V		

製品名		Prius Air		
形名		PCF-AR35R1R	PCF-AR32G1R	PCF-AR31G1R
消費電力	パソコン	約 93W (最大: 250W、 スタンバイ時: 約 2.6W)	約 91W (最大: 250W、 スタンバイ時: 約 2.1W)	
	ディスプレイ	約 44W (最大: 101W、 スリープ時: 約 0.9W、 オフ時: 約 0.9W)	-	
省エネ法に 準ずる表示	区分	j		
	エネルギー消費効率 (目標年度 2007 年度) (ヒント 7)	0.00033	0.00030	
外形寸法	パソコン	94(W) × 377(D) × 369(H)mm (スタンド、突起部を除く)		
	ディスプレイ	662(W) × 267(D) × 522.5(H)mm (突起部含まず)	-	
質量	パソコン	約 9.1kg (スタンド含まず)	約 9.0kg (スタンド含まず)	
	ディスプレイ	約 17.3kg (ケーブル含まず)	-	
周囲温度	動作時 (重要 7)	10 ~ 35 °C		
	非動作時	- 10 ~ 43 °C		
	保存および輸送時	- 10 ~ 60 °C		
周囲湿度	動作時 (重要 7)	20 ~ 80%Rh (結露しないこと)		
	非動作時	20 ~ 80%Rh (結露しないこと)		
	保存および輸送時	20 ~ 80%Rh (結露しないこと)		
	最大湿球温度	25 °C		

※ヒント

- 1: [コントロールパネル]画面-[システム]アイコン-[システムのプロパティ]でメモリー容量を確認できます。
この容量は、実装容量からビデオメモリー容量分 (8 ~ 128MB 間で使用状況に合わせて変更) を引いた値です。
参照 → メモリーボードについて → 電子マニュアル【パソコン応用】3章の「メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせ方」
- 2: Windows XP での表記は、65536 色は中 (16 ビット)、1677 万色は高 (24 ビット)・最高 (32 ビット) です。
ただし、ディスプレイによっては最高 (32 ビット) に設定しても 1677 万色以下になります。
- 3: 電源を切ると、HDD のヘッドは自動で待機領域に移動します。
HDD の容量は、1GB=10⁹ バイトで計算した場合の数値を表しています。
製品出荷時には、第一パーティション容量を 30GB、残り HDD 容量を第二パーティションに区分けしています。
- 4: 最高速度は 56Kbps ですが、実回線では回線状態により 56Kbps では接続できないことがあります。PBX 内線を經由して接続する場合は、直接外線に接続する場合と比べて通信速度が下がります。
- 5: 電気通信事業法による端末機器技術基準適合認定を受けた端末機器です。
認定形式: PM560MS
認定番号: A03-0524JP
- 6: モノラルとして機能します。
- 7: エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

▲重要

- 1: [コントロールパネル]画面-[システム]アイコン-[システムのプロパティ]で CPU 情報を確認できます。
アプリケーションなどによって、正しく表示されない場合があります。BIOS メニューの [Standard CMOS Features] でご確認ください。
- 2: 時計にはメインボードのリチウム電池を使っています。取り外さないでください。寿命で交換する場合は、お問い合わせ先にご連絡ください。刻時誤差は、メインボードのリアルタイムクロックの数値です。Windows の時間とずれることがあります。

- 3 : 地上デジタルテレビチューナーボードを取り付け済みです。取り付け済みのボードを取り外したり、取り替えることはできません。
- 4 : 地上アナログテレビチューナーボードを取り付け済みです。取り付け済みのボードを取り外したり、取り替えることはできません。
- 5 : FAX モデムボードを取り付け済みです。取り付け済みのボードを取り外したり、取り替えることはできません。
- 6 : マルチメディアカード (MMC) は使用できません。
メモリースティック Duo およびメモリースティック RPO デュオ、miniSD を使うには市販のアダプターが必要です。
SD メモリーカード、メモリースティックの同時使用はできません。
メモリースティックのマジックゲートには対応していません。
マジックゲートは、ソニーが開発した、著作権を保護する技術の総称です。
本機器では、2GB までのメモリースティックで動作確認を行っています。ただし、すべてのメモリースティックでの動作を保障するものではありません。
- 7 : 長時間の非動作時から動作させる場合は、周囲の温度や湿度になじむまで時間を置いてから起動してください。

※ ヒント ● K (大文字) と k (小文字) の記載の単位は、K (大文字) : 1024、k (小文字) : 1000 で換算しています。

ドライブの仕様

DVDスーパーマルチドライブ(DVD±R2層書き込み対応)の仕様

項目	仕様
読み込み速度*	CD-ROM、CD-R：最大 40 倍速 CD-RW：最大 40 倍速 DVD-ROM：最大 16 倍速、DVD-R：最大 16 倍速 DVD-RW：最大 8 倍速、DVD-RAM：最大 12 倍速、 DVD+R：最大 16 倍速、DVD+RW：最大 8 倍速、 DVD+R DL：最大 8 倍速 DVD-R DL：最大 8 倍速
書き込み速度	CD-R：最大 40 倍速、CD-RW：最大 32 倍速 DVD-R：最大 16 倍速、DVD-RW：最大 6 倍速 DVD-RAM(4.7GB)：最大 12 倍速、DVD+R：最大 16 倍速 DVD+RW：最大 8 倍速、DVD+R DL：最大 8 倍速 DVD-R DL：最大 4 倍速
最低書き込み速度	CD-RW：4 倍速
インタフェース	ATAPI
データ転送速度 (I/F 上)	最大 66MB/sec
平均アクセスタイム	DVD-ROM 145ms DVD-RAM 260ms CD-ROM 125ms
バッファメモリー	2MB
ローディング方式	トレイ式 / 電動イジェクト
読み込み可能ディスク	CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM、DVD-R、DVD-RW、DVD-RAM DVD+R、DVD+RW
書き込み可能ディスク	CD-R/RW、DVD-R(4.7GB)、DVD-RW(Ver.1.2)、DVD-RAM(4.7GB/9.4GB)、 DVD+R(4.7GB)、DVD+RW(4.7GB)、DVD+R DL(8.5GB)、DVD-R DL(8.5GB)
対応フォーマット	CD-DA(オーディオ CD)、CD-ROM(mode1、mode2)、CD-ROM XA (mode2 の Form1、Form2)、CD-R/RW、Photo CD(シングル/マルチセッション)、 Video CD、CD Extra(CD+)、CD-TEXT、CD-I、DVD-ROM、 DVD-R(3.95GB/4.7GB)、DVD-VIDEO、DVD-RW(4.7GB)、 DVD-RAM(2.6GB/4.7GB/9.4GB、Type1 は除く)

項目	仕様
推奨ディスク	CD-R：太陽誘電製、日立マクセル製 CD-RW：リコー製、三菱化学メディア製、日立マクセル製 Hi Speed CD-RW：三菱化学メディア製、日立マクセル製 Ultra Speed CD-RW：三菱化学メディア製 DVD-R(4x)：三菱化学メディア製、日立マクセル製 DVD-R(8x)：太陽誘電製、三菱化学メディア製、日立マクセル製 DVD-R(16x)：三菱化学メディア製、日立マクセル製 DVD-RW(2x)：日本ビクター製、TDK製、日立マクセル製 DVD-RW(4x)：日本ビクター製、三菱化学メディア製、日立マクセル製 DVD-RW(6x)：日本ビクター製、三菱化学メディア製、日立マクセル製 DVD-RAM(3x)：日立マクセル製、松下電器製 DVD-RAM(5x)：日立マクセル製 DVD-RAM(12x)：日立マクセル製 DVD+R(4x)：日立マクセル製 DVD+R(8x)：日立マクセル製 DVD+R(16x)：三菱化学メディア製、日立マクセル製 DVD+RW(4x)：リコー製、日立マクセル製 DVD+RW(8x)：三菱化学メディア製 DVD+R DL(2.4x)：リコー製、三菱化学メディア製、日立マクセル製 DVD+R DL(8x)：三菱化学メディア製 DVD-R DL(4x)：三菱化学メディア製

*： ディスクの回転率が大きい場合や高速での読み込みが困難な場合は、自動で回転率を落とします。

重要

- 推奨ディスク以外を使用される場合、正しく動作しないことがあります。
- 使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。
- ディスクをドライブに入れた直後に“Not Ready”などの準備ができていないことを示すエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、ディスクアクセスランプが消灯するまでお待ちください。
- カートリッジ式のディスクは、カートリッジから取り外した状態でのみ使用可能です。
- CD-R/RW や DVD-R/RW ディスクは、追加で書き込みをすると、書き込んだドライブ以外では正常に読み込めない場合があります。
- ドライブには、次のものを絶対に入れないでください。ディスクを取り出せなくなったり、ドライブやディスクが破損の原因になります。
 - ・ 名刺型ディスクやハート型などの異形ディスク
 - ・ 8cm 小径ディスクの 12cm 変換アダプター
 - ・ ”DVD Slim disc” などの規格外ディスク
 - ・ コイン、クリップなどの金属物や液体など、ディスク以外の異物
- 8cm の CD-ROM などを使用される場合は、パソコンを横置きにして、ご使用ください。
- ディスクにラベルなどをはらないでください。ドライブ内の回転が不安定になり、故障の原因になります。
- DVD+R DL の媒体へデータを追記し、DVD+R DL 未対応のドライブで読み込むと、追記したデータが読み込めないことがあります。
- 本ドライブで記録した DVD ± R DL の媒体は、他のドライブで読めないことがあります。
- DVD-R DL は、追記書き込みはできません。
- 本ドライブは、4 倍速書き込み以上の CD-RW ディスクに対して、書き込み（消去を含む）が可能です。2 倍速書き込みディスクなど、4 倍速未満のディスクは書き込み（消去を含む）が行えません。

ヒント

- DVD+R DL、DVD-R DL とは、片面 2 層 (8.5GB) のディスクです。

メモリーボードの仕様

項目	仕様
容量	256MB/512MB
	パリティなし
外形寸法	約 133 mm (W)X32 mm (D)
質量	約 15g
DRAM タイプ	DDR2 SDRAM PC2-4200
DIMM タイプ	240 ピン
電源電圧	1.8V ± 0.1V

※ヒント ●メモリーボードの使用環境はパソコンと同じです。

有寿命部品一覧

パソコンの部品は、長期間使用しているうちに劣化、磨耗します。

次の部品は、一定周期で交換の必要があります。

ここで記載の寿命とは設計構造上の想定寿命であり、寿命を保証するものではありません。想定寿命を満たさない場合でも、無償修理期間を過ぎている場合の部品代は有償です。

購入や交換については、お買い求め先にご連絡ください。

なお、交換した部品は、パソコン購入時の部品と、仕様が異なる場合があります。

品名	備考
ワイヤレスキーボード	* 1
ワイヤレスマウス	
PS/2 キーボード	
PS/2 マウス	
ファン	
ハードディスクユニット	
リモコン	
テレビチューナーボード	* 1、3
メインボード	
電源ユニット	
DVD スーパーマルチドライブ	* 2、4
リチウム電池 (パソコン本体用)	* 5

* 1：事務室で1日に8時間、1カ月で25日間、通常に使用すると想定した場合、寿命は約5年です。
したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。

ハードディスクに関しては、長時間連続使用など使用状態によって、早期にあるいは、製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

* 2：定期的なクリーニングし、清潔に保った場合。

* 3：使用しているアルミ電解コンデンサーは寿命のある部品です。

* 4：事務室で1日に1時間20分、1ヶ月で25日間、データの読み書きを想定した場合、寿命は約5年です。

したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。


* 5：事務室で1日に8時間、1カ月で25日間、通常に使用すると想定した場合、寿命は約5年です。
したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は長くなります。

オプション情報

パソコンに増設または接続できるオプションを次に示します。

分類	品名	形名	仕様
ファイル装置	フロッピーディスク装置	PCF-UF2231A	USB インタフェース、3.5 型、3 モード*

* : Windows XP では 2 モードでの利用となります。

 **重要** ● この一覧以外のオプションは動作保証していません。

さくいん

- B**
BIOS 63
- C**
[Caps Lock] ランプ 53
CD/DVD ドライブ 49
CD/DVD ドライブイジェクトボタン 49
- D**
D-Sub ケーブル 11, 12
DVD スーパーマルチドライブの仕様 85
- F**
FAX モデムコネクタ (Line) 51, 52
FAX モデムコネクタ (Phone) 51, 52
[FF] キー 53
FG 端子 51, 52
- I**
IEEE1394 S400 (4 ピン) コネクタ 49
[INTERNET] キー 53
- L**
LAN コネクタ 51, 52
- M**
[MAIL] キー 53
[MUTE] キー 53
- N**
[Num Lock] ランプ 53
- P**
[P1] キー 53
[P2] キー 53
[Play&Pause] キー 53
[POWER] キー 53
- R**
[Rew] キー 53
- S**
[Scroll Lock] ランプ 53
SD メモリーカードスロット 49
[Stop] キー 53
S 映像入力端子 (4 ピン) 51, 52
- U**
USB ケーブル 12
USB コネクタ 49
- W**
Windows 34
Windows キー 55
- あ**
アナログ RGB (ミニ D-Sub15 ピン) コネクタ 51, 52
アプリケーション一覧 78
アプリケーションのインストール 72
- い**
一括インストール 65
インストール 72
インターネット 46
- う**
上書きモード 54
- お**
オーディオケーブル 11, 12
オプション情報 89
- か**
拡張スロット 51, 52
かな入力 39
漢字変換 39
- き**
キーボード 10, 11, 19
キャプスロックランプ 54
- こ**
ゴム足 4 個 10, 11
コンセント 14
コンポジット映像入力端子 51, 52
- さ**
再セットアップ 62
- し**
使用許諾契約 38
- す**
スクロールロックランプ 54

スピーカー 48

せ

接続 25

専用モニタ出力端子 (D 端子) 51, 52

そ

挿入モード 54

た

縦置き 15

タブ 54

ち

地上アナログテレビチューナーボード 51, 52

地上アナログテレビ アンテナ入力端子 51, 52

地上デジタルテレビアンテナ入力端子 51, 52

地上デジタルテレビチューナーボード 51, 52

つ

通気孔 49

て

ディスクの入れ方／取り出し方 57

テレビを見る 47

電源コード 10, 11

電源コネクタ 51, 52

電源スイッチ 34, 49

電源ランプ 49

電源を入れる 34

電源を切る 41

電子マニュアル 1, 74

な

ナムロックランプ 54

は

パソコン 10, 11

パソコン仕様一覧 81

パソコンスタンド 10, 11

パソコン用リモコン 10, 11

バックアップ 63

パワー インジケータ 49

ひ

光デジタルオーディオ出力端子 51, 52

ビデオ音声入力端子 (左) 51, 52

ビデオ音声入力端子 (右) 51, 52

ふ

ファンクションキー 54

プログラムキー 55

へ

ページをスクロールする 55

ヘッドホンアウト端子 49

ほ

保証書 4, 12

ま

マイクイン端子 49, 51, 52

マウス 10, 11

マウスポインター 38

め

メモリースティックスロット 49

メモリーボードの仕様 87

も

モデム 46

ゆ

有寿命部品一覧 88

よ

横置き 16

ら

ラインアウト端子 51, 52

ラインイン端子 51, 52

り

リモコン 18

ろ

ローマ字入力 39



他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

このマニュアルにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティー契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約に基づき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。

それ以外の場合は該当ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

- ・ Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
- ・ メモリースティック、マジックゲートは、ソニー株式会社の商標です。
- ・ その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

準備しよう！ Prius

初 版 2006 年 4 月

無断転載を禁止します。

落丁・乱丁の場合はお取り替えいたします。

株式会社 日立製作所 ユビキタスシステム事業部

〒 244-0817 神奈川県横浜市戸塚区吉田町 292 番地
お問い合わせ先: 安心コールセンター 0120-885-596

© Hitachi,Ltd.2006.All rights reserved.



このマニュアルは、再生紙を使用しています。

ARRR710P0-1